

国定廃止までの教科書に載つたイソップ寓話

吉見 孝夫

一 イソップ普及のルートとしての教科書

筆者は、日本において一九世紀後半に急速にイソップ寓話が国民的常識にまでなったのには次の四つのルートがあつたと考へる。

A 刊行されたイソップ寓話集

B イソップ寓話を掲載する寓話集等一般図書

C イソップ寓話を掲載する教科書

D イソップ寓話を掲載する新聞・雑誌

A・B・Dについては既にいくつかの調査結果を本誌

『イソップ資料』に公表してきた。

Aに関する調査

・大久保夢遊、竹村友治郎編『伊曾保物語』の出版（第

七号、二〇一六年三月一五日）

・明治期のイソップ寓話集類—概要—、タイトル・原

拠・同定—、—対照表—（第一三号、二〇二一年一月三〇日）

Bに関する調査

・『經濟説略』『生産道案内』『經濟要旨』のイソップ寓話（第一一号、二〇一八年一〇月三一日）

・明治期の寓話集等に載つたイソップ寓話（第一二号、

二〇一九年一二月一六日）

・明治期の寓話集等に載つたイソップ寓話 準遺（第一五号、二〇二四年一月三一日）

Dに関する調査

・『RÖMAJI ZASSHI』に掲載されたイソップ寓話（第二号、二〇一二年三月一五日）

・幕末、明治初期の新聞に掲載されたイソップ寓話—『万国新聞（紙）』『中外新聞』『遠近新聞』—（第三号、二〇一三年三月一五日）

・『絵入朝野新聞』に掲載された『伊曾保物語』—解説編—、—複写編—、翻字編—（『イソップ資料』第四号、二〇一四年三月一五日）

・『遠近新聞』に掲載されたイソップ寓話—花間隆氏の指摘による補訂—（第九号、二〇一七年四月三〇日）

・明治期の雑誌に載つたイソップ寓話（第一一号、二〇一八年一〇月三一日）

・明治期の雑誌に載つたイソップ寓話 準遺（第一二号、二〇一九年一二月一六日）

この小論は、日本におけるイソップの受容過程を考究

するための基礎資料となることを目論んで、Cに関し、どの教科書がどの寓話を掲載したかを調査した結果を示すものである。なお戦後の中学校教科書については今村浩子による本誌掲載の以下の調査報告があるので、調査対象から除外する。

- ・戦後の中学校国語教科書におけるイソップ教材（第六号、二〇一五年四月三〇日）
- ・戦後の小学校国語教科書におけるイソップ教材（第一四号、二〇二二年一〇月一〇日）

二 調査に当たつての「一、三の留意点

調査に当たつては解決しなければならないいくつかの問題がある。一つは調査対象とする教科書の範囲をどう限るか。ここでは教室で授業に使われることを目的として刊行された図書に限つた。教科書制度の整わない明治初期には種々の図書が教科書となつた。例えば渡部温『通俗伊蘇普物語』は修身の教科書として使用されている。しかしこれは授業のために出版されたものではない。この種の図書は除外した。教師が修身の授業を進めるうえで役立てるための、いわばタネ本として教訓話を載せた本がある。こういった教師用参考書も対象外とした。教科書の中には児童用書とは別に、その指導書として教師用書が発行された場合がある。これらの教材は児童用書と同じなので、除外する。ただし児童用書の所在が不明の場合は、その代用として教師用書を調査対象とする。また明治初期にあつた「修身口授」という教科は文字通り

口授で授業は進められ、教科書は教師用書だけである。これは調査対象とする。

やつかいなのは、イソップ寓話の範囲の問題である。これはこの小論だけでなく、先のA～Dいずれにも関わる問題であるが、これまでに公にした拙稿では十分に論じなかつたので、ここで取り上げたい。結論を述べるならば、対象とするイソップ寓話とは次の条件を満たす事例とする。

学術的に認定されたイソップ寓話、あるいは日本においてイソップ由来と意識される寓話、そしてそれらの改変と見なし得る話。

学術的な認定としては、Ben Edwin Perryの *Aesopica* (University of Illinois Press, 1952) に登録された七一五話とする。日本においてイソップ由来と意識される寓話は、明治期までに日本に伝えられた以下のイソップ寓話集に採録された話とする。

『エソポのハブラス』(ESOPO NO FABVLAS)

仮名草子『伊曾保物語』

Robert Thom『意拾喻言』

Thomas James: *Æsop's Fables*

George Fyler Townsend: *Three Hundred Æsop's Fables*

Charles Stickney: *Æsop's Fables*

少し注釈が必要であろう。この条件からすると、イソップ寓話集を経由しないで伝わった話もイソップ寓話となり得る。羊飼いがライオンと対決させられるが、そのライオンを昔助けたことがあつたために命拾いをする話

がある。Aesopica の五六三番である。その羊飼いの名を
アンドロクルスとする話もあり、これは Aesopica では
五六三番 a とする。その両方が日本に伝わっているが、
名前あるいは欧米の教科書の翻訳などから伝わったと思わ
れ、日本に伝えられたイソップ寓話集にあるのは専ら名
前なしの方である。名前あるいはイソップとは意識され
いないことになるが、両者とも Aesopica にあるので、
この小論ではイソップ寓話とする。

犬からの逃げ方を百も知つてゐるキツネが、一つしか
知らないネコをバカにする。しかし実際に犬に襲われる
と、ネコは助かるが、キツネは捕まってしまう。これは
日本ではグリム童話として伝えられ、イソップ寓話とは
意識されていない。しかし Aesopica では六〇五番で登
録されているので、イソップ寓話に含める。

改変が加わると更にややこしい。『戦国策』にある「虎
の威を借る狐」と同様に、強者の権威を利用する弱者の
話はイソップにもいくつかある。これらの改変で、登場
する動物が変わり、結末も適宜変わると何に由来するの
か判断しにくいケースがある。イソップか否かの認定に
おいては恣意的にならざるを得ない場合もあることを予
め白状しておく。

「寓話」という語についても付け加えておかなければ
ならない。蛙に石を投げる少年に蛙が抗議する話がある。
これの改変で、蛙に石を投げる少年を見て、大人がそれ
をたしなめる話が教科書には載つてゐる。これでは寓話
ではなく、ただの教訓話になつてしまふ。これをもイソ

ップ寓話と呼ぶのは乱暴ではあるが、寓話性を除く形で
受け入れたという事実は受容史を考えるうえで示唆する
ところは大きい。それ故このような非寓話化の例もここ
では対象とする。この小論では厳密性を欠くことになる
のを承知のうえで、便宜上「寓話」という語を用いる。

当初は『日本教科書大系』所載の全教科書を対象とす
る悉皆調査を目論んだ。しかしそれは不可能ではないが、
膨大な時間を必要とする。一方、現在は国立教育政策研
究所教育図書館、国立国会図書館、各地の大学図書館の
所蔵教科書のうち、かなりの数がインターネット上に公
開されている。本論は、一部を除いてこの公開されてい
る教科書及び実見し得た教科書を対象とした。取り上げ
た教科書は二〇〇種近くになる。同学年のほとんどが学
んだ国定教科書がある一方、学習院という特殊な一校だ
けで使用された教科書もある。たまたま調べ得た教科書
を選んだだけで、その点では不完全な調査とのそしりを
免れない。しかし数倍の時間と労力を費やして悉皆調査
を試みたとしても、データ量は今回の調査に数割加わる
程度と推測される。明治以降イソップ寓話がどのように
受容されたかを見る基礎資料としては十分であると考え
る。

教科書の概要を記述するに当たつては、次の文献に拠
るところが大きい。

- ・古田東朔編『小学読本便覧』第一～八巻（武蔵野書院、一九八一年七月～一〇〇七年八月）
- ・府川源一郎（一〇一四）『明治初等国語教科書と子

ども読み物に關する研究 リテラシー形成メディア

の教育文化史』(ひつじ書房、二〇一四年二月一四

日)

一一年(一八七八)

修福・福井孝治著『下等小学修身談』(一月)

修木1・木戸麟編纂『修身說約』(九月)

一三年(一八八〇)

国久・久松義典『新撰小学読本』(二月)

一四年(一八八二)

国辻・辻敬之・小池民次著『初学読本』(四月)

修木2・木戸麟編『小学修身書』(六月)

修宮・宮本茂任・福井掬合著『必携小学修身讀本』(六月)

修吉見・吉見経綸編『初等小学修身訓』(六月)

国中島・中島操・伊藤有隣編輯『小学読本』(一二月)

一五年(一八八二)

国内1・内田嘉一纂述『小学中等科読本』(五月)

国宇・宇田川準一訳『小学読本』(九月)

修日1・日柳政惲編述『修身訓画解』(一〇月)

一六年(一八八三)

国池・池田觀編輯『新撰小学読本 中等科』(七月)

国原・原亮策纂述『小学読本 初等科』(九月)

修日2・日柳政惲編述『修身訓画讀本』(一一月)

一七年(一八八四)

修青山・青山正義編『修身食経俱蹉口授編』(三月)

国若・若林虎三郎編『小学読本』(六月)

修青山・青山正義編『修身口授編』(八月)

国阿・阿部弘藏纂述『小学読本』(一一月)

一八年(一八八五)

修青木・青木輔清編輯『小学民家童蒙解』(一二月)

一〇年(一八七七)

国田2・田中義廉編『小学読本』(私版本) (三月)

修天・天野皎編『小学修身談』(八月)

国鳥・鳥山啓編『初学入門』(九月)

三 イソップ寓話を掲載する明治期の教科書

以下に筆者が調べた範囲で判明した、イソップ寓話を掲載する教科書を時系列で示す。太陽暦が採用されたのは明治六年一月からなので、明治五年までは旧暦の月である。各教科書には略記を各項の頭に付す。

明治
六年(一八七三)

国田1・田中義廉編輯『小学読本』(初版本) (三月)

国福・福沢英之助訳『初学読本』(五月)

七年(一八七四)

国田1・田中義廉編『小学読本』(大改正本) (八月)

八年(一八七五)

修漢・漢加斯底爾訳『小学修身口授』(七月)

国市・市岡正一著『女学読本』(一一月)

九年(一八七六)

国田1・田中義廉編『小学読本』(大改正本) (八月)

八年(一八七七)

修青木・青木輔清編輯『小学民家童蒙解』(一二月)

一〇年(一八七七)

国田2・田中義廉編『小学読本』(私版本) (三月)

修天・天野皎編『小学修身談』(八月)

国鳥・鳥山啓編『初学入門』(九月)

- 国塙靖 1 .. 塙原靖編輯『小学中等課児読本』(二月)
- 国吉静 .. 吉田静撰『女児読本 下等科』(二月)
- 国普 1 .. 普及舎著『校訂読本』(五月)
- 国鈴 .. 鈴木幹興・三田利徳編輯『啓蒙小学読本』(六月)
- 国塙靖 2 .. 塙原靖撰『女子読本』(九月)
- 国井上 1 .. 井上蘇吉編『小学読本』(六卷本) (九月)
- 一九年(一八八六)
- 国新 1 .. 新保磐次著『日本読本』(二月)
- 国三尾 .. 三尾重定編『新編小学読本』(三月)
- 修佐 .. 佐沢太郎編輯『普通小学修身口授書』(四月)
- 国井田 .. 井田秀生著『国民読本』(四月)
- 国竹 .. 竹下権次郎編纂『小学読本』(四月)
- 国塙苔 .. 塙原苔園撰『新体読方書』(六月)
- 修丹 .. 丹所啓行・前川一郎同輯『普通小学修身談』(七月)
- 月)
- 国工 .. 工藤精一編『新読本』(九月)
- 国吉賢 .. 吉田賢輔編述『初学読本』(一〇月)
- 国佐 1 .. 佐沢太郎編纂『尋常小学第一・四読本』(一月)
- 二〇年(一八八七)
- 国内 2 .. 内田嘉一纂述『増訂小学読本』(一一月)
- 国高橋 1 .. 高橋熊太郎『普通読本』(一一月)
- 国内 3 .. 内田嘉一編輯『実用読本 寻常科』(三月)
- 国文部 1 .. 文部省編集局編纂『尋常小学読本』(四月)
- 国佐 2 .. 佐沢太郎編纂『高等小学第一・四読本』(五月)
- 月)
- 国高橋 2 .. 高橋熊太郎編『高等科用普通読本』(五月)
- 国中原 1 .. 中原貞七編纂『新定読本』(六月)
- 国中原 2 .. 中原貞七編纂『高等読本』(六月)
- 修吉田 .. 吉田利行編輯『小学修身鑑補』(六月)
- 国中川 .. 中川重麗編纂『尋常小学明治読本』(七月)
- 国下 .. 下田歌子著『国文小学読本』(八月)
- 国中根 1 .. 中根淑・内田嘉一同著『簡易小学読本』(九月)
- 月)
- 修岸 .. 岸弘毅編輯『小学修身用書』(一〇月)
- 国岡 .. 岡村増太郎編述『小学高等読本』(一〇月)
- 国植 .. 植村善作著『尋常小学温習読本』(一一月)
- 国中根 2 .. 中根淑・内田嘉一合著『小学簡易科読本』(一二月)
- 月)
- 国小松 .. 小松忠之輔『尋常読本』(一二月)
- 二一年(一八八八)
- 国島 .. 島崎友輔編輯『初学第一・八読本』(一月)
- 国木 .. 木沢成肅・丹所啓行編輯『簡易小学読本』(二月)
- 国東 .. 東京府序編『小学読本』(四月)
- 国三宅 .. 三宅米吉・新保磐次同著『高等日本読本』(五月)

国井上 2 .. 井上蘇吉編纂『小学読本』(八巻本) (六月)

国新 2 .. 新保磐次・林吾一同著『温習日本読本』(八月)

二二年(一八八九)

修沢・沢辺慶作編輯『学校用修身書』(五月)

国金 1 .. 金港堂編輯所編輯『新撰補修日本読本』(一月)

二四年(一八九一)

国金 1 .. 金港堂編輯所編輯『新撰日本読本』(五月)

国金 2 .. 金港堂編輯所編輯『新撰高等日本読本』(九月)

二五年(一八九二)

修能 1 .. 能勢栄撰『尋常小学修身書』生徒用(二月)

修荻・荻原朝之介著『帝国修身軌範教師用』(三月)

修能 2 .. 能勢栄著『尋常小学修身書初步』生徒用(三月)

月) 国育 1 .. 育英舎編述『新撰小学読本』(三月)

修育 1 .. 育英舎編述『小学修身龜鑑生徒用』(三月)

修岡・岡村増太郎著『尋常小学修身教科書』(三月)

修森・森慎一郎編輯『尋常小学修身書』(三月)

国金 3 .. 金港堂書籍編輯所編輯『新撰尋常日本読本』(四月)

月) 修末・末松謙澄著『小学修身訓生徒用』(四月)

国山 1 .. 山県悌三郎著『小学国文読本尋常小学校用』

(六月) 修重・重野安繹編輯『尋常小学修身』(七月)

国山 2 .. 山県悌三郎著『小学国文読本尋常小学校用』

片仮名文』(九月)

修京・京都府教育会編纂『尋常小学修身書』(九月)

国学海 1 .. 学海指針社編輯『帝国読本』(九月)

修大・大和田建樹著『尋常小学修身訓生徒用』(九月)

国渡・渡辺政吉著『尋常小学修身訓生徒用』(二月)

二六年(一八九三)

修小・小池民次著『尋常科初学修身書』(八月)

修教 1 .. 教育学館編輯『聖旨尋常小学修身書児童用』(九月)

修梶・梶山弛一編『尋常修身要訓生徒用』(一〇月)

国日・日下部三之介編『新撰小学読本』(二月)

修教 2 .. 教育学館『道德尋常小学修身用画集』(二月)

二七年(一八九四)

国學習・学習院編纂『院初学教本』(三月)

修末・末松謙澄著『新定尋常小学修身訓生徒用』(六月)

国興・興風学館編『尋常小学校用皇民読本』(七月)

国金 4 .. 金港堂書籍編輯所編輯『尋常新体読本』(八月)

国金 4 .. 金港堂書籍編輯所編輯『訂正新体読本尋常小学校用』(八月)

国金 5 .. 金港堂書籍編輯所編輯『小学新体読本』(九月)

国金 6 .. 金港堂書籍編輯所編輯『訂正新体読本高等小学校用』(二月)

国浅・浅尾重敏編『学尋常読本』(一二月)

- 国西沢 1 .. 西沢之助編『尋常小学読本』(二月)
- 修教 3 .. 教育学館『聖旨尋常小学修身書長野県生徒用』(三月)
- 国育 2 .. 育英舎編纂『尋常明治読本』(九月)
- 二九年(一八九六)
- 国金 7 .. 金港堂書籍編輯所編輯『小学読本 高等科用』
(一二月)
- 国大矢 .. 大矢透『大日本読本 寻常小学科』(一二月)
- 三〇年(一八九七)
- 国文部 2 .. 文部省『北海道用尋常小学読本』(三月)
- 国学海 2 .. 学海指針社編『新編帝国読本(尋常科用)』
(一〇月)
- 国文学 1 .. 文学社編輯所編纂『国民新読本 寻常小学
校用』(一月)
- 国神 .. 神戸直吉著『尋常小学新撰読本』(一二月)
- 国学海 3 .. 学海指針社『新編帝国読本 高等科』(一
月)
- 三一年(一八九八)
- 国文部 3 .. 文部省『沖縄県用尋常小学読本』(三月)
- 修普 1 .. 普及舎編輯所訂正『尋常訂正小学修身
教典 生徒用』(一二月)
- 三二年(一八九九)
- 中大 .. 大町芳衛・上田敏合編『新体中学国文教程』(四
月)
- 修学 1 .. 学海指針社編『帝国修身訓』(一〇月)
- 国西沢 2 .. 西沢之助編『尋常小学国語読本』(一〇月)
- 三三年(一九〇〇)
- 国普 2 .. 普及舎編『国語読本尋常学校用』(九月)
- 国坪 2 .. 坪内雄藏著『国語読本尋常学校用』
修普 2 .. 普及舎編輯所編『新修身教典尋常学校用』(九月)
- 国学海 4 .. 学海指針社編『小学国語読本』(九月)
- 修学 2 .. 学海指針社編『小学修身訓』(九月)
- 国金 8 .. 金港堂書籍『尋常国語読本』(九月)
- 国学海 5 .. 学海指針社編『小学国語読本 高等科』(一
〇月)
- 国坪 3 .. 坪内雄藏著『国語読本尋常学校用』(一〇月)
- 国文学 1 .. 文学社編輯所編纂『小学国語新読本
科用』(一〇月)
- 国学海 6 .. 学海指針社編『尋常女子国語読本 高等科』
(一〇月)
- 国右 .. 右文館編輯所編『尋常小学国語読本』(一〇月)
- 修金 .. 金港堂書籍編輯『尋常小学單級修身訓』(一〇月)
- 国金 9 .. 金港堂書籍編輯『修訂小学読本 高等科』(一
月)
- 修右 .. 右文館編輯所『尋常実践修身訓 児童用』(一
月)
- 国育 4 .. 育英舎『尋常小学国語教本』(一二月)
- 三四五年(一九〇一)

修文 1 .. 文学社編輯所編纂『小新修身尋常科』(一月)

国学海 3 .. 学海指針社編『正新編帝国讀本 高等科』

(三月)

修樋 2 .. 樋口勘次郎・野田淹三郎合著『尋常科用』(一月)

門』(五月)

国学海 2 .. 学海指針社『修新編帝国讀本 (尋常科用)』

(五月)

国育 5 .. 育英舎編輯所編纂『(訂正) 小學國語教科書』(尋常科用) (六月)

月)

国樋 1 .. 樋口勘次郎・野田淹三郎合著『尋常科用』(一月)

書』(六月)

国樋 2 .. 樋口勘次郎・野田淹三郎著『高國語教科書』

(六月)

修育 2 .. 育英舎編輯所編纂『尋常小學修身教本』(六月)

国育 6 .. 育英舎編輯所編纂『高等小學國語教本 女子用』(六月)

月)

国小山 1 .. 小山左文二・武島又次郎合著『新國語讀本

尋常小學校用』(六月)

月)

国文学 2 .. 文学社編輯所編纂『尋常日本國語讀本』(七月)

月)

修文 2 .. 文学社編輯所編纂『尋常日本修身書』(七月)

国文学 3 .. 文学社編輯所編纂『尋常日本國語讀本』(七月)

月)

国坪 4 .. 坪内雄藏著『國語讀本』(尋常科用) (一月)

月)

国坪 5 .. 坪内雄藏著『國語讀本』(高等科女子用) (七月)

国右 .. 右文館編輯所編『實國語讀本 寻常小学校用』

(八月)

国西沢 3 .. 西沢之助編『尋常小學國語讀本』(八月)

国小山 2 .. 小山左文二・加納友市合著『尋常高等國語讀本

兒童用』(九月)

国大日 .. 大日本図書編輯『日本國語讀本』(尋常科) (九月)

月)

国小山 3 .. 小山左文二・加納友市合著『尋常單級國語讀本

兒童用』(九月)

国高知 .. 高知県教育会編纂『國語讀本』(尋常科用) (一月)

国渡 .. 渡辺政吉『單級小學修正尋常日本讀本』(一月)

三五年 (一九〇一)

国小山 4 .. 小山左文二・武島又次郎合著『新編國語讀本

高等小學校女兒用』(二月)

修普 3 .. 普及舎編輯所編『新修身教典』(尋常小學校用) (八月)

修光 .. 国光社編輯所著『國民修身書』(尋常小學校用) (八月)

国光 .. 国光社編輯所編纂『國民讀本』(尋常小學校用) (八月)

国光 .. 国光社編輯所編纂『尋常小學讀本』(尋常小學校用) (八月)

国文学 4 .. 文学社編輯所編纂『尋常國語教科書』(九月)

修文 2 .. 文学社編輯所編纂『尋常日本修身書』(七月)

国文学 5 .. 文学社編輯所編纂『尋常國語教科書』(一月)

中武 .. 武島又次郎編『中學帝国讀本』(一二月)

三六年（一九〇三）

国国一1..文部省著作『尋常小学読本』（第一期国定）
(一一月)

国国一2..文部省著作『高等小学読本』（第一期国定）
(一一月)

四一年（一九〇八）

外台1..台湾總督府著作『台湾教科用書國民読本』（二月）

四二年（一九〇九）

国国二1..文部省著作『尋常小学読本』（第二期国定）
(九月)

国国二2..文部省著作『始業尋常小学読本』（第二期国定）
(九月)

四三年（一九一〇）

修国二..文部省著作『尋常小学修身書』（第二期国定）
(三月)

四四年（一九一〇）

修国二..文部省著作『尋常小学修身書』（第二期国定）
(三月)

大正

元年（一九一二）

中上..上田万年編『大正改元中学読本』（一一月）

二年（一九一三）

外台2..台湾總督府著作『公學校用國民読本』（二月）

国国二3..文部省著作『第二種尋常小学読本』（第二期国定）
(一一月)

四年（一九一五）

中金..金沢庄三郎著『高等女学校用国語教科書』（一〇月）
(一月)

五年（一九一六）

外台3..台湾總督府著作『蕃人読本』（二月）

六年（一九一七）

外南1..臨時南洋群島防備隊司令部著作『南洋群島國語読本』（第一次）（三月）

国国三1..文部省著作『尋常小学国語読本』（第三期国定）
(六月)

国国三2..文部省著作『尋常小学国語読本』（第三期国定）
(六月)

国国三3..文部省著作『普通学校修身書』（第三期国定）
(二月)

七年（一九一八）

修国三..文部省著作『尋常小学修身書』（第三期国定）
(二月)

八年（一九二二）

外朝1..朝鮮總督府著作『普通学校修身書』（一〇月）

一三年（一九二四）

外朝2..朝鮮總督府著作『普通学校國語読本』（一月）

一四年（一九二五）

外南2..南洋庁著作『南洋群島國語読本 本科用』（第二次）
(二月)

昭和

二年（一九二七）

中明..明治書院編輯部編纂『女子国文選』（一〇月）

外南3..南洋庁著作『南洋群島國語読本 補習科用』（第二
次）（一二月）

六年（一九三一）

外満…南満洲教育会教科書編輯部著作『満洲補充読本』

(四月)

中藤…藤村作・島津久基共編『改訂中等新国文』(八月)

七年(一九三一)

外南4…南洋序著作『群島国語読本 本科用』(第三次)

(三月)

国国4…文部省著作『小学国語読本』(第四期国定)

(一二月)

八年(一九三三)

修国4…文部省著作『尋常小学修身書』(第四期国定)

(一二月)

一二年(一九三七)

外南5…南洋序著作『本科国語読本』(第四次)(三月)

外南6…南洋序著作『本科国語読本』(第四次)(三月)

一六年(一九四一)

国国51…文部省著作『ヨミカタ／よみかた』(第五期国定)(三月)

国国52…文部省著作『コトバノオケイコ／ことばの

おかげいこ』(第五期国定)(三月)

一二年(一九四七)

国国6…文部省著作『こくご／国語』(第六期国定)

(一〇月)

前節に示したイソップ寓話掲載の教科書の概要と、掲載話のタイトル等を示す。寓話の中には、改作、翻案の程度が甚だしく、一読してはイソップと無縁に見えるものもあるが、イソップに基づくと判断される例はここに採つた。イソップ寓話の範囲は、二節に述べたとおりである。

なお、当該の教科書に、寓話番号等の検索の手がかりがない場合は、該当箇所の丁付、ページをタイトルの下に「16才」「48。」のように記した。タイトルの下の括弧内に「(A 112)」等としたのは *Aesopica* の寓話番号である。「アリストキリギリス」で知られる寓話に該当するのは *Aesopica* では二話あり、二つの番号(112・373)を併記した。挿絵のある場合は、括弧内に「(絵)」と記した。

Aesopica にない寓話は、仮に一桁の番号を付け、括弧内に「(08)」のように全角の算用数字で示した。仮の番号とそれに対応する寓話内容は五節の「対照表」に記した。

1 修身教科書

『通俗伊蘇普物語』が修身教科書としても使用された事実に表れているように、イソップ寓話の教訓は徳目と結びつけて理解された。それ故修身教科書の教材にも取り上げられている。

なお明治初期の教科「修身口授」は文字どおり教師の口伝えで授業は行われるので、教科書は教師用である。

生徒は持つ必要がない。

修漢・漢加斯底爾訳『小学修身口授』(明治八年七月)

外題は「修身口授」。那珂通高訂。府川(二〇一四)

によると、外国のリーダーなどから話を選んだらしい。教訓的な話を一九収める。漢字平仮名交じり文語体の和装本。文部省刊だが、各地で翻刻版が刊行されている。府川(二〇一四)一四七ページ以下が詳しい。一話がイソップに由来する。

「漢加斯底爾」はオランダ人 Abraham Thierry van Casteel(一八四三～一八七八)の漢字音訳名。日本語に通じていたらしく、御雇外国語教師としていくつかの翻訳書を残している。

1 「欺言を好む牧夫」 6才 (A 210)

修青木・青木輔清編輯『小学民家童蒙解』(明治九年一二月)

イソップ由来の話があるのは巻三。府川(一〇一四)は巻三はアメリカの Emma Willard の *Morals for the Young* の抄訳だという。漢字平仮名交じりほぼ総ルビ文語体の和装本。全五巻五冊。甲府の内藤伝右衛門刊。巻一は東京の同盟社刊。府川(一〇一四)一四八ページ以下が詳しい。

青木輔清(東江)は多くの教育書、語学書、啓蒙書を著している。

1 卷之三 「誠実正直のはなし」 10才 (A 210)

修天・天野皎編『小学修身談』(明治一〇年八月九日版 権免許)

生徒の記憶に残るように題材を選んだという修身教科書。松本英忠訂正。全二二章から成る。漢字平仮名交じり文語体の洋装本。洋装本としては早い時期のものである。天野皎は大阪在住で、出版人も大阪の池上儀八。七者挙がっている「発兌書肆」も大阪の書店。

天野は数多くの教育書を著している。

1 「第十二章 詐偽虚言す可らず」 (A 210)

「火事だ」と嘘を繰り返す形に改变。

修福・福井孝治著『小学修身談』(明治一一年一月一七日版 権免許)

翻訳書では日本の実情に合わない点もあるので、大阪師範学校附属小学校で授業した説話を冊子にまとめたという。狭間重亜編。和漢洋およそ三〇の逸話などを収録する。漢字平仮名交じり総ルビ文語体の和装本。大阪の浅井吉兵衛刊。

福井孝治は大阪師範学校に在籍していたようだが、出版当時は鳥取在住。いくつかの著書がある。

1 「第二回 人に對して行ふべき務 (甲) 人たるもの尋常一般の務 第六章 顧恩及忘恩 1 鳩と蟻との話」 (A 235) (絵)

修木1..木戸麟編纂『修身説約』（明治一一年九月版權
御届）

和漢洋の修身談を収録する。文語体の和装本。卷一の版下の書き手は書家の卷菱潭（一八四六～一八八六）。卷一は漢字平仮名交じりだが、卷二以降は漢字片仮名交じり。卷七、八は合冊となり、全一〇巻九冊。卷七の巻頭に「綴巻ノ便宜ニ從ヒ七八ノ巻ヲ合シテ一巻ト為セリ第十八章以下ハ即八ノ巻ナリ看官之ヲ諒セヨ」とあり、卷八の採録話番号は卷七からの通し番号である。群馬県が版権を所有するが、東京の金港堂刊。本書は群馬県令楫取素彦の指揮下に木戸麟が編纂したものだが、金港堂が全国的に販売したので、修身教科書として広く使用されたという。本書のための辞書や指導書も刊行されている。府川（二〇一四）四五三ページ以下、九四七ページ以下が詳しい。

木戸麟（一八四八～一九〇一）は土佐中村の商家に生まれる。因みに木戸家は幸徳秋水の生家とも交流があり、秋水は麟のいとこ木戸明の私塾で学んでいる。麟は大坂の華岡塾（当時は青洲の孫準平主宰）などで学び、維新後は陸軍医となる。本書出版当時は群馬県学務課委員。

1巻之一「第五」（A21）（絵）
文は『通俗伊蘇普物語』に基づく。

2巻之一「第六」（A22）（絵）
3巻之一「第十一」（A426）（絵）
文は『通俗伊蘇普物語』に基づく。

4巻之一「第十三」（A173）

文は『通俗伊蘇普物語』に基づく。

5巻三「第十九」（A566）

6巻五「第十」（A46）

7巻六「第一」（A156）（絵）

8巻八「第二十二」（A563176）（絵）

9巻八「第二十四」（A563）（絵）
絵は河鍋曉斎。

10巻十「第三」（A42）

11巻十「第五」（A112・373）

木戸麟編『修身説約読例』（明治一二年一月刊）

十巻九冊。『修身説約』に出現する語の説明書。

木戸麟編『修身説約問答方』（明治二三年二月刊）

上下二冊。『修身説約』の指導書。児童への設問と解答を示す。

修木2..木戸麟編『小学修身書』（明治一四年六月二二日版權免許）

（修木1）『修身説約』（明治一一年）同様に、和漢洋の修身談を収録する。木戸麟編、金港堂刊も同じ。巻四までは版下の書き手も同じく卷菱潭だが、巻五以降は松井甲太郎。絵は河鍋曉斎。巻六までは漢字平仮名交じり、巻七以降は漢字片仮名交じりの文語文。全一二巻一二冊の和装本。一年足らず後の明治一五年五月には第七版が出ており、これも全国的に使用されたらしい。

木戸鱗については〈修木1〉の項に記したが、明治二年に群馬県を離れ、この時点では福岡県の官吏であった。

1 一 「孝弟 師友」 16才 (A 210) (絵)

文は『通俗伊蘇普物語』に基づく。絵は『通俗伊蘇普物語』同様に河鍋暁斎の手になり、構図は類似するが、新たに描きおろしている。

2 二 「衣服」 17才 (A 472) (絵)

文は『通俗伊蘇普物語』に概ね基づく。絵は『通俗伊蘇普物語』の榊皇邨のとは異なり、暁斎による新たなものである。

3 五 「第二章 学問」 16才 (A 226)

文は『通俗伊蘇普物語』とは全く異なる。

修宮・宮本茂任・福井掬合著『必携修身読本』(明治一四年六月)

各章まず徳目につき一般論を説き、その後に「古人の事実」を付けて説得力を持たせようという形式を採る。

漢字片仮名交じり文語体の和装本。全四巻四冊。福岡の三書房刊。出版人として福岡の三名の名があり、「三書房」という名から推測すると、三者が共同して創設したか。

宮本茂任、福井掬ともに福岡在住者で、いずれも修身書や漢文関係の著書がある。

1 卷四 「鑑戒部 第四章虚誕 羊ヲ守ル子供ノ事」 (A

210) (絵)

修吉見・吉見経綸編『小学修身訓』(明治一四年六月)

徳目を説き、その後に例話を挙げる。話題は和漢洋から採る。漢字平仮名交じり文語体の和装本。前後篇二冊。東京の石川書房刊。

吉見経綸は教育関係を中心に、多くの著書、訳書を持つ。

1 前篇 「第六章 羊飼の子供の話」 (A 210)
2 前篇 「第八章 蟻と阜螽の話」 (A 112・373)

修日1・日柳政懇編述『修身画解』(明治一五年一〇月)

まず嘉言を載せ、その「解」として、例話と挿絵を掲出する。各話は半丁に収まるように配列されている。漢字平仮名交じり文語体の和装本。大阪の浪華文会刊。記に「著者兼出版人日柳政懇」とあるので、同会は日柳の創設なのである。

日柳には教育書、漢詩などの著書がいくつがある。

1 「第四課 ○虚言は。身を亡ぼすの基。小学読本」 (A 210) (絵)

修日2・日柳政懇編述『修身訓画読本』(明治一六年一月七日版権免許)

〈修日1〉『修身画解』(明治一五年)の「解」(訓話の解説)を省いたもの。漢字平仮名交じり文語体の和装

本。大阪の浪華文会刊。

日柳政憩については、『修日1』の項に記した。

1 「虚言は身を亡ぼすの基」
『小学読本』8才 (A 210) (絵)
絵は『修身画解』と同じ。「人を欺く牧童狼に噛る図」という説明がある。

修青山・青山正義編『小学修身食経俱瓈口授編』(明治一七年二月一五日版権免許)・青山正義編『修身口授編』(明治一七年八月五日版権免許)

前者には「食経」に「ヲシヘ」とルビが付いているので、「食経俱瓈」は「をしへぐさ」と読むのであろう。「教ハ食経ノ意」だという語源説に従い、「師弟ノ俱ニ瓈カシ」を願つて付けた書名。漢字片仮名交じり文語体の和装本。全五巻五冊。京都の大黒屋書舗刊。イソツブ寓話の改変が見られる。後者は全六巻六冊だが、巻之五までは前者の同版の改題本。同じく大黒屋書舗刊。青山正義には小学生向け教育書がいくつかある。

1巻之一 善行事実之部「六 老人訓談」(05)
2巻之五「十七 神助自助者」(A 291)
3巻之五「十八 食欲反損」(A 58 · 87)
A 58 と A 87 の混合か。

修佐・佐沢太郎編輯『普通修身口授書』(明治一九年四月)

修身の例話を集めた教科書。漢字片仮名交じり文語体の和装本。東京の集英堂刊。全四巻四冊。

修吉田・吉田利行編輯『小学修身鑑補』(明治一〇年六月)

先に吉田利行が刊行した嘉言集『小学修身鑑』(明治一八年)に例話を加えて増補したもの。漢字片仮名交じ

佐沢太郎(一八三八～一八九六)は開成所の教員を経て、維新後は文部省に出仕し、フランス語からの翻訳書を手がけている。明治一八年には文部省を退職。

1巻之一「亀ト兔ト競争ス」2才 (A 226)

2巻之三「蟻恩ヲ報ズ」4ウ (A 235)

3巻之五「欲深ケレバ物ヲ失フ」14才 (A 133)

修丹・丹所啓行・前川一郎同輯『普通小学修身談』(明治一九年七月)

阿部弘蔵校閲。嘉言を見出しにし、続いてその例話を載せる。漢字平仮名交じり文語体の和装本。各巻内、上下に分かれている。全八巻八冊。東京の集英堂刊。

丹所啓行(一八三九～?)は安中藩士の子。明治一〇年四〇歳近くで東京師範学校を卒業し、東京府学務課に入り、以後初等教育に従事する。教科書、教育書を編集している。前川一郎には地理関係を中心にくつかの教育書がある。

1巻之一上「羊の番する子供の事」7ウ (A 210)
2巻之二下「狐児恩を知らず」27才 (A 176)
蝮を狐の仔に変える。

り文語体の和装本。全一四卷一四冊。見返しには「魁玉堂藏版」、柱記には「星文館」とあり、出版人は福岡の右田喜久郎となつてゐる。

吉田も福岡在住で、修身、漢文関係の本を多く出してゐる。

- 1卷二「第二 慎言 四 牧童詐ヲ吐キ放逐セラル話」
(A 210)
2卷七「第三 勉強 八 農夫遺言シテ暗ニ財宝ヲ与ヘシ話」(A 42)

修岸・岸弘毅編輯『小修身用書』(明治二〇年一〇月)

初めに例話を載せ、その後に「格言」(例えれば「兎と亀と競走せし話」)であれば、「事はおこたるにやぶる」を示す。第一冊・第二冊では更に例話を要約した「約話」を加える。教師用の教科書で、漢字平仮名交じり文語体の洋装本。全四冊。東京の成美堂刊。

岸弘毅には修身書、習字書などがある。

- 1第一「〇農夫と鶴鳥の話」42ペ(A 194)
2第一「〇兎と亀と競走せし話」53ペ(A 194)
3第一「〇羊の番する牧童の話」88ペ(A 210226)
4第一「〇蟻蟲螽の話」95ペ(A 112・373)
5第一「〇衆子葡萄園を耕せし話」98ペ(A 42)
6第一「〇児童の栗を取る話」117ペ(03)
7第二「〇渴鴉瓶水を飲み得し話」82ペ(A 390)

修沢・沢辺慶作編輯『学校用修身書』卷之一(明治二年五月一日)・卷之二(明治二二年七月二六日)・卷之三(明治二四年三月三〇日)

副題に「一名修身掛図解説」とある。児童に掛図を見せながら授業を進めるための教師用教科書を意図しているのである。漢字平仮名交じり文語体の和装本。全三卷三冊。成美堂刊。成美堂は岐阜に本店があるが、刊記には発売所として東京の支店のみが挙がつてゐるので、支店が実質的に出版に携わつたのであろう。

沢辺慶作も東京在住。地理関係の書がいくつかある。

- 1卷之一「(十) 鴉の智よく渴を防ぎし話」(A 390)(総)
2卷之二「(五) 羊飼の童子虚言をつきし話」(A 210)(総)
3卷之二「(十四) 老農の遺言の話」(A 42)(総)
4卷之三「(三) 蟻の鳩に恩を報ひし話」(A 235)(総)
5・6卷之三「(九) 鹿の水鏡の話 并欲深き犬の話」
(A 74)(A 133)(総)

7卷之三「(十一) 乳汁壳婦の話」(01)(総)

修能1・能勢栄撰『尋常小学修身書 生徒用』卷一(明治二五年二月二五日)・卷六(明治二五年三月一六日)

訓話集だが、末尾を大字の嘉言・格言で締めくくる工夫がある(例えれば卷一第三課なら「その友をみて、その人をして。」)。漢字平仮名交じり文語体の和装本だが、丁付けではなくページ付けになつてゐる。全六卷六冊。東京の金港堂書籍刊。採用されたイソップ寓話の多くは

改変されている。

能勢栄（一八五二～一八九五）は長野・福島などの師範学校校長を歴任した教育学者。ヘルバート学派の翻訳紹介に努める。

- 1巻一「第三課 馬のはなし」(A 237) (絵)
- 2巻一「第五課 力を出せば車動く」(A 291) (絵)
- 3巻一「第十二課 蟻恩にむくゆ」(A 30235) (絵)
- 4巻一「第二十課 小犬の心づけ」(A 330) (絵)
- 5巻二「第四課 牙をとぐ猪」(A 224) (絵)
- 6巻二「第九課 鳥さしと雀」(A 265) (絵)
- 7巻二「第十課 猿利口」(A 73) (絵)
- 8巻三「第五課 蚊と牛」(A 137) (絵)
- 9巻三「第十六課 亀と兔」(A 226) (絵)
- 10巻四「第十三課 犬の後悔」(A 133) (絵)
- 11巻六「第十一課 蝙蝠の破廉恥」(A 566) (絵)

修能2・能勢栄著『尋常小学修身書初步 生徒用』(明治二五年三月一六日)

タイトルと絵のみ。実際の授業では教師が絵を解説しながら教訓を説くのである。絵だけでははつきりしないが、教師用を参考すると次の三課がイソップ寓話（の改変）であることがわかる。全二巻二冊の和装本。東京の金港堂書籍刊。

能勢栄については「修能1」『尋常小学修身書 生徒用』（明治二五年）の項に記した。

- 1巻一「第二十四課 蟻、蟋蟀と問答す。」(A 112・373) (絵)
- 2巻一「第二十五課 小鼠、奇策を献す。」(A 613)
- 3巻二「第十二課 樵夫、亀と問答す。」(A 173) (絵)

神が亀になつている。

修荻・荻原朝之介著『帝国修身軌範 教師用』(明治二五年三月四日)

卷頭に教育勅語を載せる。各章「訓語」「例話」「応用設問」からなる。全四冊。文語体の洋装本。漢字平仮名交じりも片仮名交じりもある。東京の博文館刊。

荻原朝之介にはスマイルズの著書の翻訳などがある。

また文部省『尋常小学読本』（明治二〇年）の補助を担当している。

1第一冊「第十三章 言語上ノ作法／例話 羊番の児童」
(A 210)

修育1・育英舎編述『小学修身亀鑑 生徒用』(明治二五年三月一九日)

漢字片仮名交じり文語体の和装本。全四巻四冊。出版人として名の挙がる阪上半七は育英舎の代表者なので、育英舎刊としてよいだろう。

- 1巻一「第三十八」(A 472) (絵)
- 2巻二「第五」(A 384) (絵)

本文は蛙が鼠に不親切なことをして却つて禍を受けたとあるだけだが、絵では猛禽が蛙と繋がった糸の切れた鼠を捕らえる。「教師用」に拠ると、鷹が鼠を捕ら

え、蛙は落下して死ぬ。

3 卷二「第十二」(A 19437) (絵)

本文は良い友を選べという訓戒だけだが、絵は農民が鳥をつかむ図。「教師用」に拵ると、烟を荒らす鳩を捕まえると鳥が入っていた。命乞いをする鳥に農民は鳩と一緒にいるのは許せないと殺す。

5 卷二「第十五」(A 210) (絵)

6 卷二「第二十一」(A 65) (絵)

7 卷二「第二十七」(A 563) (絵)

8 卷二「第三十」(A 175) (絵)

9 卷二「第三十六」(A 226) (絵)

10 卷三「第三」(A 139) (絵)

11 卷三「第八」(A 67) (絵)

修岡・岡村増太郎著『尋常小学修身教科書』(明治二五年三月二四日)

岡松甕谷閲。全四巻四冊。巻一は絵のみ。和装本だが、

ページ付け。東京の博文館刊。

岡村増太郎は東京で小学校長に就き、多くの小学生向け教育書を著している。

1 卷一「勤勉」8 ペ (A 133112 · 373) (絵)

2 卷一「節制」27 ペ (A 133) (絵)

月二九日)

最初に格言・嘉言を掲出し、次にそれに相応しい「略話」と挿絵を載せる。各話は半丁に収まる。漢字片仮名交じり文語体の和装本。全四巻四冊。発行者は東京の阪上半七。

森慎一郎は『教育論略』(明治二三年) という編述書があるのが知られるだけである。

1 卷一「〔勤勉〕オコタラズ、ツトム、ベシ。」3 ウ (A 226) (絵)

2 卷一「〔仁慈〕ミダリニ、イキモノヲ、コロス、ベ

カラズ。」9 オ (0 5) (絵)

3 卷一「〔節制〕ヨク、フカキヲ、イマシムベシ。」11 オ (A 133) (絵)

4 卷一「〔仁慈〕メグミヲ、ホドコス、ベシ。」11 ウ (A 235) (絵)

5 卷一「〔謙遜〕ミヅカラ、ホコル、ベカラズ。」16 オ (A 151) (絵)

修末・末松謙澄著『小学修身訓 生徒用』(明治二五年四月)・末松謙澄著『新定小学修身訓 生徒用』(明治二七年六月二八日)

一般的に徳目を説き、必ずしも例話を付けていない。文語体和装本で、巻之上はほとんど平仮名表記である。上中下三巻三冊。東京の精華舎刊。後者は前者の改訂版。イソップに関しても同一。

修森・森慎一郎編輯『尋常小学修身書』(明治二五年三

当時の末松謙澄（一八五五～一九二〇）は明治二三年第一回の衆議院選挙で当選し、二五年には法制局長官に就任している。修身教科書を権威付けるためには、この上ない人選であろう。

1卷之上「第十二」（A 210）（絵）

本文は「うそごとを、いふべからず、うそごとを、いふものは、まことのことを、いふときも、人これを、まこととせず、身のわざはひを、まねくものなり、」『新定』では「うそごと」を「そらごと」に変える）とあるだけだが、絵はA 210を踏まえている。

修重・重野安繹編輯『尋常小学修身』（明治二五年七月六日）

卷頭に教育勅語を載せる。文語体で、一部漢字平仮名交じりもあるが基本的には漢字片仮名交じりの和装本。ただし丁付けではなくページ付け。全四卷四冊。東京の八尾書店刊。この教科書は検定申請本と実際に供給された検定済みの本とでは内容が大きく異なる。イソップについても以下に挙げたのは供給本であり、申請本の卷一にはイソップ寓話はない。

重野安繹（一八二五～一九一〇）は当時帝国大学教授、貴族院議員。教科書を権威付けるには十分であろう。

1卷一「蟻の報恩」（A 235）（絵）

絵には何も説明がないが、水の上を行く葉に乗った蟻を鳩が木の枝から見つめているものである。

修京・京都府教育会編纂『尋常小学修身書』（明治二五年九月一八日）

正確には京都教育会中竹野熊野三郡部会編纂。中、竹野、熊野の三郡は京都府北部に位置し、現在は京丹後市。本書の使用地域もこの三郡の小学校に限られたと思われる。卷頭に教育勅語を載せる。イソップのある卷一は絵と平仮名による嘉言のみ、ただしタイトルは漢字片仮名交じり文語体。和装本だが、ページ付け。全四卷四冊。『発行兼印刷者』は京都の福井源治郎。

1卷一「第八 蟻恩ヲ報ズ」（A 235）（絵）

修大・大和田建樹著『尋常小学修身訓 生徒用』卷之二（明治二五年九月二九日）・卷之三（明治二五年九月二八日）

卷頭に教育勅語を載せる。各話の本文は要点のみで、極めて短い。漢字平仮名交じり文語体の和装本だが、ページ付け。全四卷四冊。発行者は東京の大和田本人。

大和田建樹（一八五七～一九一〇）は高等師範学校教授を前年に辞職し、作詩、作詞に専念していた時期。既に『故郷の空』（明治二一年）などの作詞者として高名であったと思われる。絵は永峰秀湖。秀湖は会津藩の絵師永峰晴水の子で、幕末から大正期に活躍した松本楓湖の門人。

1卷之二「第四」（A 133210235）（絵）

2卷之二「第五」（A 133210235）（絵）

3卷之三「第四」（A 133210235）（絵）

修小・小池民次著『尋常科生徒用初学修身書』（明治二六年八月二七日）

嘉言を掲出し、その解説を付した後に例話を載せる。

漢字平仮名交じり文語体の和装本だが、ページ付け。全八巻八冊。東京の至誠館刊。絵は名和永年。

小池民次（一八五八～？）は浜松に生まれ、千葉師範

学校を卒業し、後に千葉県立千葉高等女学校、私立一宮女学校の校長を歴任した。他に教育関係の著書を持つ。

1巻之三「第十一課 例話 かへる」（A 376）（絵）

2巻之四「第十一課 例話 鼠」（A 613）（絵）

3「第十二課 例話 強情なる馬」（A 186）（絵）

4巻之五「第十四課 例話 二匹の蛙」（A 43）（絵）

5（巻之六「第十二課 例話 山羊の注意」（21）（絵）

6巻之六「第十三課 例話 欲ふかき犬」（A 133）（絵）

7巻之七「第八課 例話 蟻ときりぎりす」（A 112・373）（絵）

8巻之八「第五課 例話 蝙蝠」（A 566）（絵）

9巻之八「第十四課 例話 欲深き童子」（03）（絵）

修教1・教育学館編輯『尋常科生徒用初学修身書 児童用』

（明治二六年九月一一日）

全四巻四冊。漢字平仮名交じり文語体の和装本。東京の大日本図書刊。第三巻を例に採れば、「孝道」「恭儉」という記述

等の徳目を一つの章とし、その下位項目として、例えは「恭儉」であれば、「礼儀」「言語」「謹慎」「儉約」「改過」を立て、それぞれにいくつかの「訓戒」「格言」「例話」を示すといった構成になつてゐる。その例話にイソツブ寓話がある。なお第一巻は『児童用』を見ることができず、『教師用』によつた。第一巻の『児童用』は絵のみと思われる。

教育学館の代表者は教育界の大立て者伊沢修二（一八五一～一九一七）。教育学館の教科書については府川（二〇一四）七四〇ページ以下が詳しい。

1第一巻「第十九図」（05）

2第三巻「第五章恭儉 二言語」（A 613）（絵）

修梶・梶山弛一編『尋常科生徒用修身要訓』（明治二六年一〇月二八日）

文語体の和装本。和本だが、ページ付け。首巻上は片仮名、首巻下は平仮名。巻四上までは確認できるが、全何巻何冊なのかは不明。梶山弛一は当時大阪在住であるが、東京の温故書院刊。

「緒言」に「彼ノ火ヲ弄ビテ家ヲ失ヒ或ハ人ヲ欺キテ

狼ニ害セラル、例話ノ如キハ既ニ人口に鱗矣シテ訓誨ヲ施スノ好材料タルヲ以テ特ニ之ヲ緝録セリ」という記述

がある。「人ヲ欺キテ狼ニ害セラル、例話」とはいわゆる狼少年の話で、既に明治二六年において、これがよく知られていたことの貴重な証言である。

- 1 首巻上「第十三課 ウソイフ、コドモ。」(A 210) (絵)
2 首巻下「第七課 くりをとる、こども。」(0 3) (絵)

『教師用』に出典が『伊蘇普物語』と明記されている。
2 第三巻「一 言語 言フコトハ易ク、行フコトハ難シ。」

修教2..教育学館編輯『聖旨尋常小学修身用画集』(明治二六年一二月一七日)

『修教1』『聖旨尋常小学修身書』(明治二六年)中の絵を集めたもの。絵に簡単な説明が付く。漢字平仮名交じりほぼ総ルビ文語体の和装本。東京の大日本図書刊。『修教1』の第一巻一九図もイソップ寓話のはずであるが、これは掲載されていない。

- 1 「第三巻 三十九図」(A 613) (絵)

修教3..教育学館編輯『聖旨尋常小学修身書_{長野県}生徒用』(明治二八年三月一二日)

『修教1』『道徳尋常小学修身書 児童用』(明治二六年)の改編本といえる。長野県生徒用が特別に作られた経緯は不明だが、同県は教育学館を主宰した伊沢修二の出身地である。文語体の和装本。主に漢字平仮名交じりだが一部片仮名交じり。全四巻四冊。東京の大日本図書刊。

- 1 第一巻「教訓図第十九 蛙、無慈悲なる戯をなす児童を諭しむ。」(0 5) (絵)

修普1..普及舎編輯所訂正『尋常小学修身教典 生徒用』(明治三一年一二月八日)

卷頭に教育勅語を載せる。卷一は絵と格言のみ、卷二は敬体による口語体の和装本。全四巻四冊。東京の普及舎刊。普及舎及びその創設者辻敬之については府川(三〇一四)六二四ページ以下が参考になる。

- 1 卷一..「第十七課 かめとうさぎ (一)」「第一八課 かめとうさぎ (二)」(A 226) (絵)
2 卷二..「第二十一課 からすのじまん (一)」「第二十二課 からすのじまん (二)」(A 472) (絵)

修学1..学海指針社編『帝国修身訓』(明治三一年一〇月一二日)

イソップ寓話のある巻二は絵と平仮名口語体の簡単なせりふのみ。全八巻八冊。東京の集英堂刊。多種ある学海指針社編の教科書はそのほとんどが集英堂刊であり、両者は事实上一体であると思われる。集英堂は小林八郎が創設した教科書出版社。

- 1 卷二「第四課 鳩と蟻との話」(A 235) (絵)
2 卷二「第五課 蟻といなごとの話」(A 112・373) (絵)

3卷二「第十四課 龜と兎」(A 226) (絵)

修普2・普及舎編輯所編『新編修身教典』(尋常小学校用) (明治三三年九月一九日)

卷一は絵と片仮名による格言のみ。卷二は平仮名口語体。和装本だがページ付け。全四卷四冊。東京の普及舎刊。

1卷一「第十六課 かめとうさぎ」(A 226) (絵)

2卷二「第廿二課 からすのじまん」(A 472) (絵)

修学2・学海指針社編『小学修身訓』(明治三三年九月二三日)

イソップのある卷一は絵と平仮名口語体による簡単な説明のみ。和装本。全四卷四冊。東京の集英堂刊。「教員用」には詳しい内容が記されているので、教員が細かに説明しながら授業を進めるのであろう。

1卷一「第十四 亀と兎と」(A 226) (絵)

2卷一「第二十二 鳩と蟻と」(A 235) (絵)

3卷一「第二十三 蟻といなごと」(A 112・373) (絵)

修金・金港堂書籍編輯『小学單級修身訓』(尋常小学校用) (明治三一年一月三日)

甲篇と乙篇とに分かれる。両篇とも三卷三冊。単級用なので、全学年が同時に授業を受けられるように、同じ篇では三卷とも同一教材。当然同一教材であっても上級篇

に進むに従つて内容は複雑になる。乙篇は『教員用』のみ見た。漢字平仮名交じり文語体の和装本。ただし卷一は絵のみ。東京の金港堂書籍刊。

奥付に「半古永洗画」とあるので、絵は梶田半古(一八七〇~一九一七)、富岡永洗(一八六四~一九〇五)の筆になるのであろう。両者とも当時既に人気の絵師であつた。

1甲篇「第十六課 蟻ときりぐす」(A 112・373) (絵)

2乙篇「第七課 欲深き犬」(A 133)

修右・右文館編輯所『小学実践修身訓 児童用』(明治三三年一二月一三日)

卷頭に「勅語(教育勅語)」を載せる。イソップのある卷一は片仮名、卷二は漢字平仮名交じりの口語体で分かれ書きされる。四卷四冊の和装本。東京の右文館刊。右文館の代表者、須永和三郎は高等師範学校を卒業後、埼玉県師範学校で教え、右文館を創設する。須永についてでは府川(二〇一四)七二六ページが参考になる。

1卷一「第八課 よくのふかいいぬ」(A 133) (絵)
本文は「ヨクノフカイイヌ」とあるのみだが、絵からイソップ寓話とわかる。

2卷二「第四課 うさぎとかめ」(A 226) (絵)

3卷二「第九課 ありときりぎりす」(A 112・373)

4卷二「第二十二課 かうもりの二心」(A 566)

修文1..文学社編輯所編纂『小新修身_{尋常科}教師用』（明治三四年）

一月一七日

『生徒用』が所在不明のため、『教師用』を見た。卷一の各課は「本課の要旨」「絵画の説明」「説話」「教授上の注意」「設問」から成る。おそらく生徒用は絵だけと推定される。卷二は「本課の要旨」「生徒用本文」「例話」「教授上の注意」「設問」から成る。生徒用は絵と本文と推定される。「生徒用本文」は一文か二文のごく簡単なもので、教師が『教師用』の「例話」に基づいて詳しく説明して授業を進めるものと思われる。漢字平仮名交じり文語体の洋装本。全四巻四冊。東京の文学社刊。

府川（二〇一四）七一〇ページに拠ると、文学社の代表、小林義則は東京師範学校を卒業後、明治十五年に文学社を創設する。

1巻一「第二十四 狐と野猪との話」（A 224）

生徒用には絵があるはず。

2巻一「第十四 蟻と鳩と」（A 235）

3巻一「第十五 にせの孔雀」（A 472）

修樋・樋口勘次郎・野田滝三郎合著『修身教科書入門』（明治三四年五月一七日）

卷一はタイトル以外は絵のみ。卷二は絵と簡単な口語体の標語（例えば2であれば「おんをしる」）のみ。卷一は片仮名、卷二は平仮名の和装本。全二巻二冊。東京の金港堂書籍刊。

樋口勘次郎（一八七二～一九一七）は新進の教育学者で、当時はヨーロッパに留学中。高名な樋口の名があるが、実質的な著者は野田滝三郎独りか。野田の著書は調べた限りでは樋口との共著ばかりである。

1巻一「十五 ハトトアリ」（A 235）（絵）

2巻二「十 ねづみのおんがへし」（A 150）（絵）

3巻二「十五 うさぎとかめ」（A 226）（絵）

修育2..育英舎編輯所編纂『尋常修身教本』（明治三四年六月二六日）

卷一は絵のみ、卷二は絵と平仮名の簡単な文。口語体による全四巻四冊の和装本。東京の育英舎刊。

1巻一「第二十三課」（A 112-373）（絵）

『生徒用』は無題だが、『教師用』には「蝗と蟻」のタイトルがある。

2巻二「第一課 かめとうさぎ」（A 235-226）（絵）

3巻二「第三課 おんをかへせ」（A 226）（絵）

修文2..文学社編輯所編纂『尋常日本修身書』（明治三四年七月七日）

卷一は絵のみ、卷二は平仮名のみによる敬体の口語体和装本。全四巻四冊。東京の文学社刊。

1巻一「第二十 亀と兎」（A 226）（絵）

2巻二「第八 烏」（A 472）（絵）

修普3・普及舎編輯所編『新修身教典尋常小学校用』（明治三五年八月五日）

（修普2）『新修身教典尋常小学校用』（明治三三年）の訂正三版だが、内容に若干の相違がある。卷頭に教育勅語を載せる。卷一は絵のみだが、目次は片仮名使用。卷二は絵に、平仮名による口語体の簡単な説明が付く。全四卷四冊の和装本だが、ページ付け。東京の普及舎刊。

1卷一「ダイ十七 カメトウサギ」（A226）（絵）
2卷二「だい十八 からすのじまん」（A472）（絵）

修光・国光社編輯所著『国民修身書尋常小学校用』（明治三五年八月一〇日）

卷一は絵のみ。卷二は、絵に加え平仮名口語体による説明、片仮名による嘉言が付く。全四卷四冊の和装本だがページ付け。東京の国光社刊。

1卷一「十三 はちとすゞむし」（A112・373）（絵）
2卷一「十七 はとゝあり」（A235）（絵）
3卷一「二十一 二ひきのかへる」（A69）（絵）
4卷一「三十五 かめとうさぎ」（A226）（絵）
5卷一「三十九 からすのかざり」（A101）（絵）
6卷二「だい十六 ひやくしょーとつばめ」（A194）（絵）
7卷二「だい二十五 木こりととしより」（A173）（絵）

修国二・文部省著作『尋常小学修身書』（第二期国定）（明治四三年三月一五日）

第二期の国定教科書。卷一は片仮名口語体。全六卷六冊。洋装本。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。他に『教師用』『複式編制学校児童用』『同教師用』がある。

1卷一「三 ベンキヤウ セヨ」（A226）（絵）
居眠りするウサギと先を行くカメの絵のみ。

2卷一「十九 ウソ ヲ イフナ」（A210）（絵）
本文は「コノ コ ハ タビタビ ウソ ヲ イツタカラ、ダレ モ タスケテ クレマゼン。」とあるだけだが、絵では子どもが狼に追いかかれられている。

修国三・文部省著作『尋常小学修身書』（第三期国定）

卷一（大正七年二月五日）・卷二（大正七年二月一五日）第三期の国定教科書。卷一、二は片仮名口語体。全六卷六冊。洋装本。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。他に『教師用』がある。

1卷一「三 ナマケルナ」（A226）（絵）
絵のみ。〈修国二〉1と同じ。

2卷一「十九 ウソ ヲ イフナ」（A210）（絵）

本文は「コノ コ ハ タビタビ「オホカミ ガ キタ。」トイツテ、人ヲダマシマシタ。ソレデホンタウニオホカミ ガ デテキタ トキ、ダレ モ タスケテ クレマゼン デシタ。」とイソップ寓話であることが〈修国二〉2よりも明確になる。

3卷一「七 ジマンスル ナ」（A281）（絵）

修国四・文部省著作『尋常小学修身書』(第四期国定)

(昭和八年一二月二八日)

第四期の国定教科書。卷一、二は片仮名口語体。全六巻六冊。洋装本。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。他に教師用がある。

1卷一「十四 ウソ ヲ イフ ナ」(A112・373210) (絵)
2卷二「十一 ナマケル ナ」(A112・373210) (絵)

2卷二「第四」(A210325) (絵)
2卷二「第五」(A210325) (絵)

2 国語教科書

イソップ寓話を最も多く掲載する教科書の分野は、初等教育段階の読本を中心とする国語教科書である。小学校低学年あるいは尋常小学校と、高学年あるいは高等小学校とでは採用される寓話の傾向に違いが見られる。

国田1・田中義廉編纂『小学読本』(初版本) (明治六年三月)・田中義廉編輯『小学読本』(大改正本) (明治七年八月改正)

近代の国語教育の出発点となる教科書。両本とも種々の版がある。前者の表紙には「文部省編纂」とある。那珂通高(一八二八～一八七九)が手を入れた後者の「大改正本」では表現が変えられる。絵も異なる。後者の表紙には「文部省師範学校編輯」とあるが、巻頭には「田中義廉編輯 那珂通高校正(訂正とも)」とあり、柱記には「師範学校」とある。両本とも全四巻四冊で、漢字平仮名交じり文語体の和装本。『小学読本便覧』第一巻に解説がある。また府川(一〇一四)二五三ページ

以下が詳しい。イソップのある卷一は大部分がアメリカ *Readers* の抄訳。
田中義廉(一八四一～一八七九)は英語、フランス語に通じ、当時文部省に出仕していた。退官した後も多くの教科書編集に携わる。

1卷二「第四」(A210325) (絵)
2卷二「第五」(A210325) (絵)

国福・福沢英之助訳『初学読本』(明治六年五月)

府川(一〇一四)に拠ると、英語の三種のリーダーから適宜材料を抜き出して翻訳し、読本として編集したらしい。刊記はないが、見返しに「明治六年五月／福沢英之助版」とある。漢字片仮名交じりの文語体の和装本。本書については府川(一〇一四)九九ページ以下が詳しい。

福沢英之助(？～一九〇〇)は中津藩出身で本名和田慎次郎。慶應二年(一八六六)の幕府の留学生としてイギリスに渡る際に同郷の福沢諭吉の弟と称して福沢姓を名乗った。帰国後 G.F.Townsend の *Three Hundred Aesop's Fables* の抄訳『訓蒙話草』(明治六年)を出版している。
1「童子及ヒ狼ノ事」3ウ(A210)

府川(一〇一四)に拠ると、*Willson Reader* に基づく。
国市・市岡正一著『女学読本』(明治八年一一月二一七日
版権免許)

序文や跋文が一切ないので、出版の趣旨は不明だが、女子生徒用の読本教科書を企図しているのであろう。漢字平仮名交じり文語体の和装本。全三巻三冊。東京の錦耕堂刊。

市岡正一は、この前後に多くの教科書を出している。

明治一三年から一五年には民法編纂局書記官であり、その後も多くの法律関係書を著している。明治三十年代には東京府の大久保村村長に就いている。

- 1巻一「第一」(05) (絵)
- 2巻一「第一」(A210472) (絵)
- 3巻一「第一」(A210472) (絵)
- 4巻三「第三」(A42) (絵)

国田2..田中義廉編『小学読本』(私版本) (明治一〇年三月)

明治六年一二月に文部省を辞めた田中義廉が(国田1)『小学読本』(明治六年)に基づきつつ新たに読本教科書を編したのが本書。全六巻六冊。巻五・六は理科的読み物。漢字平仮名交じり文語体の和装本。柱記に「鶴巣書屋」とあるが、版により、刊記に「田中義廉藏版」あるいは「出版人 内藤伝右衛門」「藏板人 田中古登」(田中義廉と同住所)とあつたり、「発兌書肆」として、「文会舎 西洋平」あるいは「内藤伝右衛門」「文会舎」を含む九者を挙げるものなど版により区々である。先に作った初版本よりも「優る所有するに似たり」と扉に記し(これのない版もある)、田中にとつては文部省を離れ

て己の望むように作つた思いなのだろう。収録のイソップ寓話は(国田1)と同じ。ただし文章は初版本とも大改正本とも小異がある。

田中については(国田1)の項に記した。

- 1巻二「第六回」(A325)
- 2巻二「第十二回」(A210)

国鳥..鳥山啓編輯『初学入門』(明治一〇年九月)

和漢洋の逸話を載せるが、各話はごく簡単な記述である。漢字平仮名交じり文語体の和装本。扉に「和歌山県学務課藏版」とあるが、刊記には「翻刻人 松本善助」(松本は大阪在住)とある。明治一六年には上下二冊でも刊行されている。

鳥山啓(一八三七~一九一四)は「軍艦行進曲(軍艦マーチ)」の作詞者、また南方熊楠の師として知られるが、当時は和歌山師範学校の教員である。鳥山の功績については府川(二〇一四)七六ページ以下が、本書については府川(二〇一四)三九九ページ以下が詳しい。

- 1「第二十一章」(A150563)
- 2「第二十四章」(A150563) (絵)

明治一六年版の絵は構図の同じ別図。

国久..久松義典『新撰小学読本』巻一・三(明治一三年二月)

明治期の大手教科書会社金港堂が手がけた最初の小学教科読本用教科書である。漢字平仮名あるいは片仮名交じ

り文語体の和装本。

久松義典（一八五五～一九〇五）は当時栃木県師範学校教員。久松については府川（二〇一四）四五五ページ以下が、本書については府川（二〇一四）四五八ページ以下が詳しい。

1卷二「〇第二十六章」（A 426）

2卷三「第七章」（A 65）

国辻・辻敬之・小池民次著『初学読本』（明治一四年四月一五日）

正・続の二編二冊。漢字平仮名交じり文語体の和装本。「出版人」は辻敬之自身である。辻は翌年に普及舎という出版社を創設している。

辻については府川（二〇一四）六二四ページが詳しい。

小池民次については『修小』『尋常科生徒用初学修身書』（明治二六年）の項に記した。

1続篇「蟻といなごの問答」14才（A 112・373）

国中島・中島操・伊藤有隣編輯『小学読本』卷之三（五

（明治一四年一二月二六日）・卷之六（明治一五年二月二六日）

和漢洋の小話で構成されている。漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全七巻七冊。栃木の集英堂刊。本書については府川（二〇一四）四一一ページ以下が詳しい。

中島操は栃木県師範学校教員。中島、伊藤は共に小学

生向けの教育書をいくつか出している。

1卷之三「第七回」27ウ（05）

2卷之四「第六回」17才（A 112・373）

3卷之五「第三回」13才（A 112176112・373）

4卷之六「第四回」

13才（A 112176112・373）

国内1・内田嘉一纂述『小学中等科読本』（明治一五年五月二〇日版権免許）

読み物だけでなく、歴史・地理・理科的な教材も含む。漢字片仮名交じり文語体の和装本。全六巻六冊。東京の金港堂刊。以下がイソップ由来だが、しばしば改变する。絵は松本楓湖。なお卷三「第十九課 蛛虻モ亦人ニ益アリ」は鈴木青渓『新訳伊蘇普物語』（明治二十五年）下二八話と同じだが、イソップとは認めがたい。

内田嘉一（一八四八～一八九九）は慶應義塾の出身。教科書の他、啓蒙的な著訳書が多い。

1卷一「第廿一課 恩ヲ受ケテハ必ズ忘ル、「勿レ」（A 175）

2卷二「第十四課 甘ヲ分タザレバ苦ヲ共ニセズ」（A 67）

3卷二「第十七課 胃ヲ悪テ手足等労動セズ」（A 130）

4卷二「第廿六課 辻翁驢馬ヲ販ク」（A 721）（絵）

5卷四「第二課 獅子ハ百獸ノ王」（A 563）（絵）

6卷五「第廿三課 蝙蝠論」（A 566）

7卷六「第十七課 事皆中庸ヲ得シヲ要ス」（A 569）

国字・宇田川準一訳『小学読本』卷之三（明治一五年九月）・卷之五（明治一五年一〇月）

小笠原東陽校。Marius Wilson による *School and Family Readers* の翻訳。漢字平仮名交じり文語体の和装本。全五卷五冊。卷之六の草稿がある。東京の文学社刊。本書については府川（二〇一四）三〇八ページ以下が詳しい。

宇田川潤一（一八四八～一九一三）は東京師範学校教員、群馬県師範学校教頭となり、物理学関係の著訳書が多い。

- 1 卷之三「第五課 第十」（05）
2 卷之五「第十課 第十二」（A 210325）
3 卷之五「第十課 第十四」（A 210325）

国池・池田觀編輯『新撰小学読本 中等科』（明治一六年七月）

三尾重定刪定、福羽美静閑。理科的な内容が多い。漢字片仮名交じり文語体の和装本。全六卷六冊。大阪の東崖堂刊。

池田觀には歴史書、漢文関係の編著がある。

なお、回のナンバーは、巻を超えての通し番号。

- 1 卷一「第二回」（A 12173）
2 卷一「第四回」（A 157412）
3 卷一「第四回」（A 157412）
4 卷一「第六回」（0 4）

- 5 卷一「第六回」（A 213）
6 卷二「第八回」（3 8）
7 卷二「第九回」（A 213）
8 卷二「第十回」（A 294627）
9 卷二「第十一回」（A 294627）
10 卷二「第十三回」（A 521112179）
11 卷二「第十四回」（A 521112179）
国原・原亮策纂述『小学読本 初等科』卷四（明治一六年一〇月）・卷五（同九月一〇日）
- 広く使用され、明治十年代の初等科の代表的な国語教科書だといわれる。漢字平仮名交じり文語体の和装本。全六卷六冊。東京の金港堂が〈国久〉『新撰小学読本』（明治一三年）に続いて手がけた小学読本。本書については府川（二〇一四）四六二ページ以下が詳しい。
- 原亮策は金港堂の社主原亮三郎の長男で、明治二年生まれ。当時数え一五歳であり、府川（二〇一四）は亮策が実際の纂述者かどうか疑問を呈している。
- 1 卷四「第一課 亀とうさぎ」（A 226）
2 卷四「第二十七課 行ひをもて示せ」（A 322）
3 卷四「第三十課 治に居て乱を忘ることなかれ」（A 224）
4 卷四「第三十六課 欲ふかければ物を失ふ」（A 322）
5 卷四「第四十五課 用なきものは宝に非ず」（A 503133）
6 卷五「第十一課 虚言実をあやまる」（A 210）
7 卷五「第二十八課 蠅のいましめ」（A 80）

8卷五「第三十三課 みめよきはとるに足らず」(A 499)

9卷五「第三十五課 小鳥の至言」(A 627)

10卷五「第三十九課 おのが力をはかれ」(A 230)

11卷五「第四十四課 蟻恩を報ず」(A 235)

12卷五「第四十五課 農夫の遺訓」(A 42)

国若..若林虎三郎編『小学読本』(明治一七年六月二〇日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全五卷五冊。「出版人」は東京の嶋崎穂之蒸。本書については府川(二〇一四)四七〇~一ジ以下が詳しい。『小学読本便覧』第一巻に解説がある。

若林虎三郎(一八五五~一八八五)は東京師範学校卒業後同校訓導となつて教育に従事する。

1第三「第十一課 烏の話」(A 390) (絵)

国阿..阿部弘蔵纂述『小学読本』(明治一七年一月五日版権免許)

漢字片仮名交じりの文語体の和装本。全六卷六冊。東京の金港堂刊。イソップに由来する一五話が載る。

阿部弘蔵は旧幕臣で、開成所の教授を務める。彰義隊

に加わりその名付け親だという。維新後は慶應義塾に入り、その後文部省に出仕する。『修丹』(通『小学修身談』(明治一九年)の校閲者でもある。阿部は金港堂から『修身説話』という口語体の児童向け読み物を三年後の明治二〇年に出している(拙稿「明治期の寓話集等に載つた

イソップ寓話 補遺』(『イソップ資料』第一五号)参考照)。1・2・3・4・5・8・9・10・11・12は『修身説話』にもあるが文章は異なる。

1一巻「第二十九章」(A 112499)

2一巻「第五十八章」(A 112499・373)

3二巻「第四章」(A 42)

4二巻「第十五章」(A 42)

5二巻「第三十七章」(A 472)

6二巻「第四十八章」(A 230)

7二巻「第六十五章」(A 43)

8三巻「第五十一章」(A 67)

9四巻「第十六章」(A 91)

10四巻「第三十七章」(A 521)

11五巻「第十六章」(A 566)

12五巻「第二十五章」(A 65)

13五巻「第三十七章」(A 346613)

14五巻「第四十章」(A 346613)

15六巻「第二十四章」(A 627)

16六巻「第二十四章」(A 563 a)

国塙靖1..塙原靖編輯『小学課児読本』(明治一八年二月一日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全三卷三冊。東京の教育書房錦森閣刊。

塙原靖(一八四八~一九一七)は後には渋柿園の名で知られる小説家。渡部温が教官であった沼津の兵学校

で学んでいる。

1卷一「○朋友ト熊」16ウ（A 65）

国吉静・吉田静撰『女兒讀本 下等科』（明治一八年二月二五日）

女子児童用の讀本。課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全五卷五冊。出版人は吉田静自身の他に東京の林武運、長谷川赤。吉田については不明。以下の二例とも出典を「伊蘇普物語」と明記している。

1卷の五「第十」（A 133）（絵）
2卷の五「第三十二」（A 390）（絵）

国普1・普及舎著『讀本』（明治一八年五月）・普及舎著『校讎本』（明治一八年六月）

漢字平仮名交じり文語体の和装本。ただしページ付け。全六卷六冊。東京の普及舎刊。後者は稻垣千穎閲。前者とほとんど変わらない。

1第四「三十六」（0 5）
2第五「三十二」（A 235）

国鈴・鈴木幹興・三田利徳編輯『啓蒙小学讀本』（明治一八年六月一八日）

龜谷省軒閲。漢字平仮名交じり文語体の和装本。全五卷五冊。東京の光風社刊。

鈴木幹興、三田利徳には教科書、児童向け教育書などがいくつかある。

1卷五「第二十七」（A 42）
2卷五「第三十三」（A 133）

国塚靖2・塚原靖撰『女子讀本』（明治一八年九月二二日版權免許）

女子児童用で、「黔妻の妻」（卷一）、「王湛の妻」（卷二）といった教材の選択にそれらしい配慮が見られる。漢字平仮名交じり文語体の和装本。全五卷五冊。東京の金港堂刊。

塚原靖については「国塚靖1」の項に記した。

1卷一「○第十九課 正直の徳」（A 173）
2卷二「○第十五課 捕鳥奴 暖言」（A 265）
3卷六「○第十二課 小禽の金言 寓言」（A 627）

国井上1・井上蘇吉編『小学讀本』（六卷本）卷之三（五）（明治一八年九月）

杉浦重剛校閲。漢字平仮名交じり文語体の和装本。全六卷六冊。「編者兼出版人」として「井上蘇吉」「沢屋蘇吉」の名が並んでいる。両者の住所は同一である。一八八〇年代九〇年代には「沢屋蘇吉」を出版人とする書籍がいくつかある。「沢屋」は出版活動を行う際の屋号か。本書については府川（二〇一四）六〇二ページ以下が詳しい。

井上蘇吉は著訳書をいくつか持つ。

1 卷之三 「第十一課 鴉と水瓶との話」 (A 10390)

2 卷之三 「第十三課 牧童と狼との話」 (A 21039)

3 卷之三 「第二十五課 摩利支天と農夫との話」 (A 291)

4 卷之四 「第十二課 儉父の戒」 (A 53)

5 卷之四 「第十八課 二人の朋友と熊の話」 (A 65)

6 卷之四 「第二十課 農夫と鴻との話」 (A 130)

7 卷之五 「第四課 鳥と獸との戦の話」 (A 194)

8 卷之五 「第七課 胃腑と支体との話」 (A 130566194)

国新1..新保磐次著『日本読本』(明治一九年二月一五
日版権免許)

漢字片仮名交じり文語体の和装本。全六巻六冊。東京
の金港堂刊。本書については府川(二〇一四)四八一ペー
ージ以下が詳しい。『小学読本便覧』第三巻に解説があ
る。

新保磐次(一八五六~一九三二)は高等師範学校教授
の後、金港堂に入社し教科書編集に携わる。

1 第二「雞と狐。」20ウ (A 671) (絵)

2 第四「宝。」25オ (A 42)

3 第四「櫻ト葦。」30ウ (A 70)

国三尾..三尾重定編『新小学読本』(明治一九年三月)

福羽美静閑。教材により漢字平仮名あるいは片仮名交
じり文語体の和装本。各巻上中下とあり、全三巻九冊。
東京の教育書院刊。

三尾重定は教育書を多く著している。

1 第二の中「第五」(A 20210) (絵)

2 第三の上「第一」(A 130) (絵)

3 第三の上「第四」(A 255) (絵)

A 255 「蚊とライオン」の前半のみ。

国井田..井田秀生著『国民読本』巻一・四(明治一九年
四月)

教材により平仮名あるいは片仮名交じりの文語体の和
装本。全四巻四冊。「出版人」として東京の吉川半七、
牧野善兵衛の外鴻巣の長嶋為一郎の名が挙がっている。
本書については府川(二〇一四)六〇七ページ以下が詳
しい。

井田秀生は教育書をいくつか出している。

1 卷二「第十四」(0 5)

2 卷四「第十四」(A 426)

国竹..竹下権次郎編纂『小学読本』(明治一九年四月)

第二巻、第三巻は上下があり、三巻五冊。教材により
漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。東京
の中近堂刊。

竹下権次郎は「時事新報」の記者。

1 第三巻下「第三十五 油断大敵」(A 226) (絵)

2 第三巻下「第四十二 慾に迷ふ者は却て損す」(A 133)

国塚苦・塚原苦園撰『新体読方書』(明治一九年六月一一日版権免許)

表紙にローマ字書きがあり、それによると書名は「しんたいとくほうしょ」である。課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。各巻上下に分かれており、全四巻八冊。東京の石川教育書房刊本と大阪の前川書房刊本とがある。どちらも柱記には「錦森閣藏」とあり、同版と思われる。本書については府川(二〇一四)六三〇ページ以下が詳しい。

塚原苦園は教育書を多く出している。

1巻四の上「○第八課」(A65)

国工・工藤精一編『新読本』(明治一九年九月)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の洋装本。全六巻六冊。「出版人」は東京の大倉保五郎。工藤精一には英語からの翻訳書がいくつがある。

1五「第九 兎と亀」(A226) (絵)

2六「第四 旅人と熊」(A65) (絵)

3六「第八 羊」(21) (絵)

国吉賢・吉田賢輔編述『初学読本』(明治一九年一〇月)

本居豊穎校訂。教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の汎愛堂刊。吉田賢輔(一八三八～一八九三)は慶應義塾の創設にも関わり、塾長となつた人物。

1巻四「第十六 小児と菓子」(03) (絵)
2巻四「第十九 欲深き犬」(A133) (絵)

3巻四「第二十 子供と蛙」(05) (絵)
4巻六「第二 烏の話」(A390) (絵)

5巻六「第四 正直の童子」「第五 不正直の童子」(A173) (絵)

6巻六「第十四 熊の話」(A65) (絵)
173 (絵)

国佐1・佐沢太郎編纂『尋常小学第一～四読本』(明治一九年一一月九日)

塚達校閲。漢字平仮名交じりもあるが多くは片仮名交じり文語体の和装本。各巻上下に分かれ、全四巻八冊。東京の文栄堂刊。

佐沢太郎については「修佐」『普通修身口授書』(明治一九年)の項に記した。

1第四読本上巻「第三課 鴉の話」(A390) (絵)

国内2・内田嘉一纂述『増小学読本』(明治一九年一一月一九日改題御届)

漢字片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の金港堂刊。卷一、二、六は、それぞれ「国内1」「小学中等科読本」(明治一五年)の卷一、二、四と同内容。絵も同じく松本楓湖。

内田嘉一については「国内1」に記した。

1巻一「第廿一課 恩ヲ受ケテハ必ズ忘ル、「勿レ」(A

- 2 卷二「第十四課 甘ヲ分タザレバ苦ヲ共ニセズ」(A 130)
 67
 3 卷二「第十七課 胃ヲ悪テ手足等勞動セズ」(A 130)
 4 卷二「第廿六課 遷翁驢馬ヲ販グ」(A 721) (絵)
 5 卷四「第四課 童子錢ヲ失フ」(A 173)
 6 卷四「第廿四課 他力ニ依ル者ハ必ズ奴ト為ル」(A 269)
 7 卷四「第廿五課 大言倨傲ヲ慎メ」(A 188)
 8 卷六「第二課 獅子ハ百獸ノ王」(A 563) (絵)
 9 卷七「第廿三課 蝙蝠論」(A 566)

- 東京の牧野善兵衛、吉川半七の名があるが、見返しには「教育書屋藏」、柱記には「三書房藏」と記されている。三名は(国井田)『国民読本』(明治一九年)の出版人である。
- 内田嘉一については(国内1)『小学中等科読本』(明治一五年)の項に記した。
- 1 卷四「第四十三課 狐ト樵」(A 22) (絵)
 2 卷五「第七課 農夫ト鴻」(A 194) (絵)
 3 卷五「第十四課 檻と葦」(A 70)
 4 卷五「第十八課 烏と狐」(A 124)
 5 卷五「第二十一課 蟻ト阜螽」(A 112・373)

- 国高橋1・高橋熊太郎『普通読本』(明治一九年一月) 各編上下あり、全四編八冊。教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。出版人は東京の小林八郎。本書については府川(二〇一四)六一一ページ以下が詳しい。画は松本楓湖、小林聖湖。
- 府川(二〇一四)に拠ると高橋熊太郎は栃木県の教員であつたらしい。教科書、教育書をいくつか著している。
- 1 四編上「第二十課 烏ノ話」(A 390) (絵)
 2 四編上「第二十三課 老農子ヲ戒ム」(A 42)

- 国文部1・文部省編輯局編纂『尋常小学読本』(明治二〇年四月二九日版權所有届)
- 文部大臣森有礼、編輯局長伊沢修一の下で作られた教科書。漢字平仮名交じりの和装本。卷一は敬体の口語体、卷二以降は文語体を用いる。全七巻。文部省編輯局刊。編輯主任は尺秀三郎。府川(二〇一四)五二四ページ以下が詳しい。『小学読本便覧』第二巻に解説がある。尺(一八六二・一九三四)は後に東京外国语学校教授となる教育学者。
- 1 卷之一「第九課」(A 605) (絵)
 2 卷之二「第十九課 欲 ふかき 犬 の 話」(A 133)

- 国内3・内田嘉一編輯『実用読本尋常科』(明治二〇年三月)

- 課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全六巻六冊。「出版人」として鴻巣の長島為一郎、

- 180 (絵)

4卷之四 「第二十三課 鹿の水鏡」 (A 74) (絵)

5卷之七 「第十三課 蟻と鳩との話」 (A 235)

国佐2・佐沢太郎編纂『高等小学第一・四読本』(明治二〇年五月一三日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。第一読本から第四読本まであり、各上下に分かれ全八冊。東京の文栄堂刊。

佐沢太郎については、『修佐』『普通修身口授書』(明治一九年)の項に記した。

1 第二読本上巻 「第八課 和睦の必用」 (A 130)

2 第二読本上巻 「第十四課 児供と蛙との話」 (0 5)

国高橋2・高橋熊太郎編『高等普通読本』(明治二〇年五月)

漢字片仮名交じり文語体の和装本。各編上下に分かれ全四編八冊。東京の集英堂刊。

高橋熊太郎については、『国高橋1』『普通読本』(明治一九年)の項に記した。

1 二編上 「第十課 身体ノ機関 其三 消化」 (A 130)

国西邨・西邨貞著『幼学読本』(明治二〇年五月)

多くは漢字片仮名交じり、一部は平仮名交じり文語体の和装本。八卷八冊。東京の金港堂刊。府川(二〇一四)四九四ページ以下が詳しい。『小学読本便覧』第三巻に

解説がある。

西邨貞(一八五四~一九〇四)は教育者、教育理論家として有名。

1 第二「第十六課。キツネトカラス。」(A 124) (絵)

2 第四「第十四課。欲深キ犬。」(A 133) (絵)

3 第四「第二十課。狐トネコ。」(A 605) (絵)

4 第五「第五課。獅子ト鼠。」(A 150) (絵)

5 第五「第九課。ゆだん 大敵。」(A 226) (絵)

国中原1・中原貞七編纂『新定読本』(明治二〇年六月八日版権免許)

漢字平仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の文学社刊。掲載イソップ寓話は改変が目立つ。絵は永峰秀湖。

中原貞七(一八五八~?)は盛岡で南部藩士の家に生まれる。明治一六年東京大学卒業後は主に東京の成立学舎の舎長として教育界で活躍する。

1 五「第二課」(A 426) (絵)

2 五「第三課」(A 613) (絵)

3 五「第九課」(A 65) (絵)

4 六「第五課」(A 451) (絵)

5 六「第十三課」(A 285) (絵)

6 八「第十四課」(A 173285) (絵)

国中原2・中原貞七編纂『高等読本』(明治二〇年六月八日版権免許)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和

装本。全八巻八冊。東京の文学社刊。掲載イソップ寓話

は改変が目立つ。絵は永峰秀湖。

中原貞七については『国中原1』『新定読本』(明治

二〇年)の項に記した。

1巻一「第二十八課 蛙ノ不信実」(A 384) (絵)

2巻二「第七課 家鼠及ビ野鼠」(A 352)

3巻二「第二十八課 獅子恩ヲ知ル(一)」(A 563)

4巻五「第二十八課 傲慢ナル驢馬」(A 188)

1巻一「第二十八課 蛙ノ不信実」(A 384) (絵)

2巻二「第七課 家鼠及ビ野鼠」(A 352)

3巻二「第二十八課 獅子恩ヲ知ル(一)」(A 563)

4巻五「第二十八課 傲慢ナル驢馬」(A 188)

十九日

国中川・中川重麗編纂『尋常小学明治読本』(明治二〇年七月

教材により平仮名あるいは片仮名交じり文語体の洋装本。全八巻八冊。京都の二西楼と大阪の積小館の両者による刊行。

中川重麗(一八五〇～一九一七)は教員の後、俳句また児童文学の分野で活動する。

1巻二「第三十五」(A 472)

2巻四「第四」(A 499210)

3巻四「第九」(A 499)

4巻六「第九 狐と野猪」(A 224)

5巻七「第廿二 蟻と蟲螽」(A 112・373)

国下・下田歌子著『国文小学読本』四之巻(明治二〇年八

月一一日)

高崎正風・末松謙澄校閲。漢字平仮名交じりで、文語

体が多いが口語体もある。和装本。全八巻九冊(一の巻

は上下二冊)。東京の十一堂刊。本書については府川(二

〇一四)六三七ページ以下が詳しい。

当時の下田歌子(一八五四～一九三六)は華族女学校の学監であり、まださほど高名ではなかつたと思われる。それ故に校閲者として男爵高崎、ケンブリッジ大学帰りの末松の名が必要だったのであろう。

1四之巻「第二十一 蜻蛉と蟻とのはなし」(A 112・373)

敬体の口語体。

国中根1・中根淑・内田嘉一合著『簡易小学読本』(明治二〇年九月)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。五巻五冊。東京の金港堂刊。

中根淑(一八三九～一九一三)は沼津兵学校の教員も務めた漢学者だが、当時は金港堂の幹部であった。内田嘉一については『国内1』『小学中等科読本』(明治一五年)の項に記した。

1巻二「第二十七課」(A 390)

〈国中根2〉1と同文。ただし表記は異なり、漢字片

仮名交じり。

2巻四「第九課 農夫の遺言」(A 42)

国岡・岡村増太郎編述『小学高等読本』（明治二〇年一月）

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。各巻上下に分かれており、全四巻八冊。「出版人」は東京の阪上半七。

岡村増太郎については、『修岡』『尋常修身教科書』（明治二五年）の項に記した。

1巻一下「第二 胃ヲ惡ンデ手足等労動セズ」（A130）

国植・植村善作著『小学温習読本』（明治二〇年一月）

当時地域によっては置かれた温習科のための読本教科書。教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全上下二冊。東京の普及舎刊。

植村善作は『簡易小学読本』という教科書を普及舎から出していることが知られるだけである。

1上「第三章 少女の妄想」（01）（絵）

2下「第十七章 胃と四体との寓言」（A130）

国中根2・中根淑・内田嘉一同著『小学簡易科読本』（明治二〇年一二月）

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全六巻六冊。東京の金港堂刊。

中根淑については、『中根1』『易小学読本』（明治二〇年）、内田嘉一については、『国内1』『小学中等科読本』（明治一五年）の項にそれぞれ記した。

国小松・小松忠之輔編輯『尋常読本』（明治二〇年二月）

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。「出版人」は東京の内藤恒右衛門。山梨の温故堂版もある。本書については府川（二〇一四）六七八ページ以下が詳しい。

小松忠之輔は、明治二〇年東京の第一寺島小学校長に就いている。また『参考用書 小学修身叢談』（明治二〇年）という教師用指導書を温故堂から出している。

1巻六「第五課 鼠の話」（絵）「第六課 前課の続き」（A352）

国島・島崎友輔編輯『初学第一～八読本』（明治二一年一月一七日）

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八冊。東京の興文社刊本と大阪の前川善兵衛が出版人となっている本とがある。どちらも柱記には「錦森閣藏」とあり、本文は同版。本書については府川（二〇一四）六九二ページ以下が詳しい。

島崎友輔（柳塙）（一八六五～一九三七）は後に日本画家として名を成す。

1第七「第六 農夫ノ遺言」（A42）

国中根1・1と同文。ただし表記は異なり、漢字平仮名交じり。

1巻三「第二十六課」（A390）

2 第八「第八 羊」（21）

国木・木沢成肅・丹所啓行編輯『簡易小学読本』（明治二年二月一八日）

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全六巻六冊。出版人は東京の阪上半七と石塚徳次郎で見返しには「二書堂藏梓」とある。

木沢成肅には修身、読本の教科書他多数の著書がある。丹所啓行については「修丹」『普通小学修身談』（明治一九年）の項に記した。

1巻四「第十二課 蜜蜂ト阜螽ノ話。」（第十三課 其二。）（A 112・373）

2巻五「第十七課 牛をまねる墓。」（A 376）（絵）

国東・東京府庁編『小学読本』巻三・四（明治二年四月四日）

漢字平仮名あるいは片仮名交じりで、文語体あるいは口語体の和装本。全八巻八冊。柱記には「東京府」とあり、「発行兼印刷人」としていざれも東京の文海堂・文玉園・文学社・中央堂の名が挙がっている。画は小林聖湖。本書については府川（二〇一四）五六七ページ以下が詳しい。

1巻三「第十八課」（A 210）

2巻三「第二十五課」（A 124）（絵）

3巻四「第二課 無益の殺生をすな」（05）

国三宅・三宅米吉・新保磐次同著『高等日本読本』（明治二年五月九日）

漢字片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の金港堂刊。

三宅米吉（一八六〇～一九二四）は後に東京文理科大学初代学長となる歴史学者だが、当時は金港堂の幹部社員であった。新保磐次については「国新1」『日本読本』（明治一九年）の項に記した。

1巻一「三、鳥ト狐。」（A 124）

2巻一「十五、狐。」（A 15）

3巻一「十九、珍シキ道行。」（A 721）

4巻一「廿二、獅子。」（A 563）

5巻二「三、偽ルコト勿カレ。」（A 210）

6巻二「十、身体ノ争ヒ。」（A 130）

国井上2・井上蘇吉編纂『小学読本』（八巻本）巻之二・巻之七（明治二年六月二一日）

杉浦重剛校閲、諫訪慎訂正。『国井上1』『小学読本』（六巻本）（明治一八年）の改訂版。多くは漢字平仮名とともに片仮名交じり文語体の和装本。首巻プラス七巻八冊。東京の敬業社刊。なお巻之六「第三十一課」は出典が「伊蘇普物語」と明記されているが、同一の話はイソップ寓話に見出せない。本書については府川（二〇一四）六〇六ページ以下が詳しい。

井上蘇吉については「国井上1」の項に記した。

1 卷之二	「第十八課」(A 414)
2 卷之二	「第二十二課 牧者と犬の話」(A 412)
3 卷之二	「第三十四課 妄言は人の禍」(A 168365)
4 卷之二	「第五十三課 貪欲は無欲の話」(A 133)
5 卷之三	「第三十九課 兔と亀との話」(A 226)
6 卷之三	「第四十三課」(0 3) (絵)
7 卷之三	「伊蘇普物語」と明記されている。
8 卷之三	「伊蘇普物語」と明記されている。
9 卷之四	「第四十四課」(A 32)
10 卷之四	「伊蘇普物語」と明記されている。
11 卷之四	「第四十二課 鴉と水瓶の話」(絵) (A 210390)
12 卷之五	「第十五課 牧童と狼との話」(絵) (A 566)
13 卷之六	「第二十三課 農夫と鴻の話」(A 194)
14 卷之七	「第四課 蝙蝠世渡りの狹き話」(A 566)
15 卷之七	「第七課 胃腑と支体との話」(A 42)

東京師範学校を卒業後、各地の師範学校で教員、校長を歴任する。教育関係の著訳書が多い。

国金1・金港堂編輯所編輯『簡易日本読本』(明治二二年一月二十四日)・金港堂編輯所編輯『新撰日本読本』(明治二四年二月九日)

後者は前者と同版の改題本。漢字片仮名交じり文語体の和装本。全上下二冊。東京の金港堂刊。

国金2・金港堂編輯所編輯『新撰高等日本読本』(明治二四年九月五日)

漢字片仮名交じり文語体の和装本。上編四冊、中編・下編各二冊で全八冊。東京の金港堂刊。

新保磐次については、『国新1』『日本読本』(明治九年)の項に記した。林吾一(一八五一~一九一〇)は

新保磐次

地域によつては置かれた温習科用の読本教科書。漢字片仮名交じりの文語体の和装本。全二冊。東京の金港堂刊。

国新2・新保磐次・林吾一同著『温日本読本』(明治二二年八月二〇日)

新保磐次

新保磐次については、『国新1』『日本読本』(明治九年)の項に記した。林吾一(一八五一~一九一〇)は

国育1・育英舎編述『新撰小学読本』(明治二五年三月)

一九日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。「発行者」は東京の阪上半七。

1巻四 「第七課 アリト、キリギリスノ話」 (A 112 · 373)

2巻四 「第十課 よくふかき犬の話。」 「第十一課 ヨクフカキ犬ノ話。」 (A 133)

2課で一話完結。第十課は漢字平仮名交じり、第十一課は漢字片仮名交じり。

3巻四 「第十四課 子供と、蛙。」 (0 5)

4巻五 「第四課 蟻の恩返し。」 (A 235)

5巻五 「第十四課 鶴と狐の話。」 (A 349426)

6巻五 「第十八課 ランプの話。」 (A 349426)

7巻六 「第三課 鳥のたび。」 (A 613390)

8巻六 「第七課 鼠ノ相談。」 (A 613390)

9巻六 「第十一課 小鳥と鼠の戦争。」 (A 566)

国金3・金港堂書籍編輯所編輯『新撰尋常日本読本』(明治二五年四月一二日)

漢字片仮名ときには平仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の金港堂書籍(「金港堂」の会社名変更)刊。

1巻四 「うさぎ。」 19 ウ (A 226)

2巻八 「宝。」 28 ウ (A 42)

国山1・山県悌三郎著『小学国文読本 寻常小学校用』

国学海1・学海指針社編輯『帝国読本』(明治二五年九月二〇日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和

卷之二(明治二五年六月二日)・卷之四(明治二五年七月一日)・卷之六・七(明治二五年九月五日)

漢字平仮名交じりの和装本。多くは文語体だが、卷二是口語体。全八巻八冊。東京の文学社刊。

山県悌三郎(一八五九~一九四〇)は東京師範学校卒業後教員を務めるが、雑誌「少年園」を明治二一年に創刊するなど在野で活躍する。

1巻二 「第十二課」 (A 133) (絵)
2巻四 「第二十二課 農夫の話」 (A 42) (絵)
3巻六 「第六課 骨折りぞん」 (A 721) (絵)

4巻七 「第十三課 妄想」 (0 1)
1巻二 「第十二課」 (A 133) (絵)
2巻四 「第二十二課 農夫の話」 (A 42) (絵)
3巻六 「第六課 骨折りぞん」 (A 721) (絵)

国山2・山県悌三郎著『小学国文読本 寻常小学校用 片仮名交』(明治二五年九月五日)

卷六、七は、課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の文学社刊。15年は「国山1」『小学国文読本 寻常小学校用』(明治二五年)の2~4とほとんど同文であり、絵も同じ。

山県悌三郎については「国山1」の項に記した。

1巻六 「第五課 農夫の話」 (A 42) (絵)

2巻六 「第七課 骨折りぞん」 (A 721) (絵)

3巻七 「第十二課 妄想」 (0 1)

装本。全八卷八冊。東京の集英堂刊。学海指針社、集英堂共に小林八郎の創設である。

- 1 卷之三「第十三課 かへるのはなし」(A 376) (絵)
2 卷之三「第二十八課 からすのちゑ」(A 390) (絵)
3 卷之五「第十六課 狐と鶴」(A 426) (絵)
4 卷之八「第九課 蟻の話」(A 112・373) (絵)

国学習・学習院編纂『学習初学教本』三之卷 (明治二七年三月一五日)

国渡・渡辺政吉著『小学尋常日本読本』(明治二五年一二月六日)・渡辺政吉著『小学修正尋常日本読本』(明治三年一月二〇日)

三宅米吉闘。後者は前者の改訂版で、ほぼ同文だが「三宅米吉闘」が消える。三学級以下の尋常小学校向けに作られた読本教科書。課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。卷五は四冊からなり全五卷八冊。東京の金港堂書籍刊。

渡辺政吉は小学校用の各種教科書を著している。

- 1 卷五上「○鳥」1才 (A 390)
2 卷五天「○鳥ノハナシ」1才 (A 194)
3 卷五地「○農夫ノ遺言」2才 (A 42)

国興・興風学館編『尋常小皇民読本』(明治二七年七月九日)

卷之四以降は漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八卷八冊。発行者は東京の神戸直吉 (神戸書店)。

国日・日下部三之介編『新撰小学読本』(明治二六年一月九日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体 (卷三までは口語体も) の和装本。全八卷八冊。東京の田沼書店刊。

1 卷之四「第六課 愚なる女」「第七課 愚なる女 つゞき」(A 58) (絵)
2 卷之四「第十課 慾深き犬」(A 133) (絵)
3 卷之四「第十五課 鳥と獣の話」「第十六課 鳥と獣の話 つゞき」(A 566) (絵)

日下部三之介 (一八五六～一九二五) は二本松藩士の家に生まれ、文部省を退官後東京教育社を創設し、国家主義教育の論陣を張る。

- 1 卷之四「雞ノケアヒ」12ウ (A 281) (絵)

学習院で使用するために学習院の教員たちによつて編纂された教科書。課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。口語体も文語体もある。全一二卷一二冊。学習院刊。当時の学習院は宮内省管轄の官立学校。1三之卷「第九課 いつはり の いましめ」(A 210)
2三之卷「第十六課 ゆだん は 大できなり。」(A 226)

4卷之六 「第九課 旅客と熊」 (A 65) (絵)

5卷之六 「第十三課 兎と亀」 (A 226) (絵)

6卷之六 「第十五課 獅と鼠の話」 「第十六課 獅と鼠の話 続き」 (A 150) (絵)

7卷之八 「第八課 羊の山路」 (21)

用』 (明治二七年一月三日)

〈国金5〉『小学新体読本』 (明治二七年) の改訂版。

漢字片仮名交じり文語体の和装本。全八卷八冊。東京の金港堂書籍刊。

1卷四 「第十二課 身体の論争」 (A 130)

〈国金5〉の2と同文。

国金4..金港堂書籍編輯所編輯『尋常小学新体読本』 (明治二

七年八月一五日)・金港堂書籍編輯所編輯『正新体読本』 (明治二

尋常小学校用』 (明治二七年八月一五日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。

文語体も口語体もある。全八卷八冊。東京の金港堂書籍刊。後者は前者の訂正改題本。教材に小異がある。また同一教材でも文章に小異がある。

1卷三 「第八課」 (A 226) (絵)

前者では無題だが、後者では「第八課 カメとうさ

ぎ」とタイトルがある。

国金5..金港堂書籍編輯所編輯『高等小学新体読本』 (明治二

七年九月二九日)

漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八卷八冊。東京の金港堂書籍刊。

1卷一 「第十二課 珍シキ道行」 (A 130721)

2卷四 「第十一課 身体の論争」 (A 130)

国浅..浅尾重敏編『尋常小学新体読本』 (明治二七年一二月一
二日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。

文語体も口語体もある。「発行者」は富山市の中田清兵衛・小林恒太郎・大橋甚悟である。扉に「三書堂」、柱記に「三書堂藏版」とあるが、中田以下三者の共同出版の謂であろう。絵は尾竹越堂、尾竹竹坡の兄弟。

浅尾重敏 (一八六三~?) は富山県出身で、当時は神戸在住であるが、明治一五年から二五年まで富山県師範学校の教員を務めている。浅尾及び本書については府川 (二〇一四) 七六三ページ以下が詳しい。

1卷四 「第十七課 鳩ト蟻トノハナシ」 (A 235) (絵)

落款がなく画工はどちらか不明。

国西沢1..西沢之助編『尋常小学新体読本』 (明治二八年二月一八日)

じり文語体の和装本。全八卷八冊。東京の国光社刊。卷

国金6..金港堂書籍編輯所編輯『正新体読本 高等小学

之一第三十六課は絵付きで「うさぎは、はやくはしる。

かめはおそらくあゆむ。」という動物の性質を事実として述べただけだが、イソップの影響を見ることができるだろう。なお西沢之助編『尋常小学読本』(明治三一年版)とは異なる。こちらにはイソップ寓話はない。

西沢之助(一八四八～一九二九)は国光社を創設し、多くの教科書を出版する。

1卷之四「第九課 ヨクフカキ農夫」(A87) (絵)

国育2・育英舎編纂『尋常小学明治読本』(明治二八年九月一〇日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八巻八冊。「発行兼印刷者」は阪上半七。柱記にも「阪上藏梓」とある。

1卷二「第十九課」(A133) (絵)

2卷四「第十五課 鼠の相談」(A390613) (絵)

3卷五「第十五課 烏のちゑ」(A390613) (絵)

国金7・金港堂書籍編輯所編輯『小学読本 高等科用』(明治二九年一二月二〇日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の金港堂書籍刊。

1卷一「第十八課 烏ト狐」(A124)

国大矢・大矢透『大日本読本 寻常小学科』(明治二九

年一二月二三日)

上田万年・尺秀三郎閲。課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。口語体も文語体もある。全八巻八冊。東京の大日本図書刊。本書については府川(二〇一四)七四七ページ以下が詳しい。大矢透(一八五一～一九二八)は国語学者として名高い。明治一九年から数年間は文部省編輯局で伊沢修二の下にいて教科書編集に携わっている。

1卷二「第十六」(A133) (絵)

2卷六「第八 骨をしみせし馬」(A180) (絵)

国文部2・文部省『北海道用尋常小学読本』(明治三〇年三月九日)

文部省は内国植民地とされた北海道の児童向けには本書を作成し、使用させた。課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八巻八冊。文部省刊。本書については府川(二〇一四)七八三ページ以下が詳しい。

1卷三「第十二課 よく ふかき 犬。」(A133) (絵)

国学海2・学海指針社編『新編帝国読本』(明治三〇年一〇月一一日)・『修正新編帝国読本』(明治三四年五月)

後者は前者の修正版。後述の「国学海3」と紛らわしいが、これは尋常科用教科書である。教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体も

ある。全八卷八冊。東京の集英堂刊。

1卷二「とくしょ」2ウ (A 226)

後者では「おはなし」

三〇年一二月三日)・学海指針社『^修正新編帝国読本高等科』(明治三四年三月)

後者は前者の修正版。全八卷八冊。イソップのある卷

二は漢字平仮名交じり文語体の和装本。東京の集英堂刊。

1卷二「第四 蝙蝠」(A 566)

国文学1..文学社編輯所編纂『国民新読本尋常小学校用』(明治三〇年一一月一四日)・文学社編輯所編纂『小

学国語新読本尋常科用』(明治三三年一〇月一四日)

後者は前者の改訂版。表記を手直ししてあるが、ほとんど同文。教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八卷八冊。東京の文学社刊。

1卷二「ウサギ ト カメ」20オ (A 226) (絵)

2卷七「第五 骨折りぞん」(A 721) (絵)

国神..神戸直吉著『^{尋常}小学新撰読本』(明治三〇年一二月三〇日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八卷八冊。東京の神戸書店刊。住所が同じなので、神戸書店は神戸直吉の創始になる出版社であろう。『国興』『^{尋常小}学科用皇民読本』(明治二七年)の出版社もある。

神戸には英語本や教育書がある。姓はカンベ。

1卷五「第七課 ちゑと勉強」(A 390)

国学海3..学海指針社『新編帝国読本高等科』(明治

国文部3..文部省『^{沖縄}尋常小学読本』卷三(明治三一年三月一〇日)・卷五(明治三二年一月一三日)・卷六(明治三二年二月一六日)

文部省は内国植民地とされた沖縄県の児童向けには本書を作成し、使用させた。課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八卷八冊。文部省刊。本書については府川(三〇一四)七八三ページ以下が詳しい。

1卷三「第十四課 ヨク ノ フカイ 犬。」(A 133) (絵)

2卷五「第六課 烏ト狐。」(A 124) (絵)

3卷六「第十五課 亀と兎とのかけくらべ。」(A 226) (絵)

国西沢2..西沢之助編『^{尋常}小学国語読本』(明治三二年一〇月二二二日)

副島種臣・東久世通禧閲。課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの洋装本。口語体も文語体もある。全八冊。東京の国光社刊。

西沢之助については〈国西沢 1〉『尋常小学国語読本』（明治二八年）の項に記した。

1 四 「第二十二課 三郎」（A 226）（絵二図）

直接寓話を示すのではなく、本文中に「先生から、兎と亀とのかけくらに、兎が、ゆだんをしてまけたといふ話をきく」とある。絵はこの寓話を関わる二図。

国育 3 .. 育英舎編纂『新尋常小学読本』（明治三二年一月二八日）

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八巻八冊。東京の育英舎刊。

1 卷二 「第三十課 かめと、うさぎ」（A 226）

2 卷三 「第十四課 ヨクフカキ犬」（A 133）

3 卷四 「第八課 烏のちゑ」（A 390）

4 卷四 「第九課 カウモリノ二心」（A 613566）

5 卷四 「第十一課 鼠のさうざん」（A 61）

本文中のタイトルは正しく「鼠のさうだん」とある。

6 卷五 「第二十課 二人ノ旅人」（A 65）

7 卷八 「第十二課 地下の宝物」（A 42）

国坪 1 .. 坪内雄藏著『読本 生徒用書』（尋常小学）（明治三二年一二月二五日）

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八巻八冊。東京の富山房刊。坪内雄藏（逍遙）（一八五九～一九三五）の関わった教科書については府川（二〇一四）八二一ページ以下が詳しい。

た教科書については府川（二〇一四）八二一ページ以下が詳しい。

1 卷一 「ハト アリ」 2 オ （A 235）（絵）

2 卷一 「ヲノ キコリ」 3 ウ （A 173）（絵）

3 卷一 「ウサギ ガ ヤスマ。カメ ガ イソグ。」 9 ウ （A 226）（絵）

4 卷一 「いぬ が はし を わたる。かげ が みづ に うつる。」 24 ウ （A 133）（絵）

5 卷三 「八、ねずみのさうだん」（A 613）（絵）

6 卷三 「廿四、あほふ鳥」（A 472）（絵）

7 卷四 「十五、蟻 ト セミ」（A 112・373）（絵）

国普 2 .. 普及舎編『国語読本』（尋常小学用）（明治三三年九月六日）

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本だが、ページ付け。文語体も口語体もある。東京の普及舎刊。

1 卷二 （無題） 26 ペ・（A 112・373）

2 卷二 （無題） 32 ペ・ 37 ペ （A 226）

37 ページは 32 ページの話に関する設問。

3 卷三 「第二 日と風との力くらべ」（A 46）

国坪 2 .. 坪内雄藏著『国語読本』（尋常小学用）（明治三三年九月一七日）

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。ただし卷一は片仮名のみ。全八卷八冊、東京の富山房刊。三版は内容、構成が異なるので、〈国坪4〉として別に項を立てた。

- 1卷一「ハト。アリ。」2ウ (A 235)
2卷一「ウサギ ガ ヤスム。」11才 (A 226)
3卷三「6 ねずみのそーだん」 (A 613)
4卷三「22 あほー鳥」 (A 472)
5卷四「15 蟻トセミ」 (A 112)
ウ (A 226)
373

国学海4..学海指針社編『小学国語読本』(明治三十三年)

九月二三日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八卷八冊。東京の集英堂刊。

- 1卷五「第十 ひばりのはなし」 (A 325)

国学海5..学海指針社編『小学国語読本 高等科』(明治三十三年一〇月一日)

九月二三日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八卷八冊。東京の富山房刊。版により構成が異なるが、イソップ寓話に関しては変わりない。

- 1卷三「第五課 胃の腑の説諭」 (A 130)
国学海6..学海指針社編『女子国語読本 高等科』(明治三十三年一〇月一七日)
漢字平仮名交じり文語体の和装本。全八卷八冊。東京の集英堂刊。以下の二話は〈国学海5〉『小学国語読本 高等科』(明治三十三年)とほぼ同文。絵も同じ。

- 1卷一「第十四 蝙蝠」 (A 566)
2卷二「第十六 鼠の相談」 (A 613) (絵)
ウ (A 226)
3卷五「第四課 カウモリ」 (A 566)
4卷一「ウサギ ガ ヤスム。」11才 (A 226)
5卷三「6 ねずみのそーだん」 (A 613)
6卷四「15 蟻トセミ」 (A 112)
ウ (A 226)
373

国学海5..学海指針社編『小学国語読本 高等科』(明治三十三年一〇月一日)

九月二三日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八卷八冊。東京の集英堂刊。

- 1卷一「第十四 蝙蝠」 (A 566)
2卷二「第十六 鼠の相談」 (A 613) (絵)

国右・右文館編輯所編『尋常小学国語読本』(明治三三年一〇月二一日)・右文館編輯所編『実國語読本』尋常小学校用』(明治三四年八月一日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八卷八冊。東京の右文館刊。

後者は前者の改訂版。

- 1卷二「第十九課」(A 613) (絵)
2卷三「第二十三課 おやこのかへる」(A 376) (絵)
3卷四「第十一課 ネコ トキツネ」(A 605) (絵)
4卷四「第二十二課 風と日」(A 46) (絵)
5卷七「第十二課 獅子と蚊との戦」(A 255)
6卷八「第十七課 鹿の水かがみ」(A 74)

国金9・金港堂書籍編輯『尋常小学読本 高等科』(明治三三年一一月二八日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八卷八冊。東京の金港堂書籍刊。

1卷一「第十七課 烏ト狐」(A 124)
2卷四「第十八課 身体ノ論争」(A 130)

国育4・育英舎編輯所編纂『尋常小学国語教本』(明治三三年一二月二七日)

原本は未見。課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりと思われる。坂上半七刊。以下府川(二〇一四)八一七ページに拠る。

- 1卷二「30 カメト、ウサギ」(A 226)
2卷三「14 ヨクフカキ犬」(A 133)
3卷四「9 カウモリノ二心」(A 566)
4卷四「11 ねずみのそーだん」(A 613)
5卷五「20 二人ノ旅人」(A 65)

国育5・育英舎編輯所編纂『尋常小学国語教本』(明治三四年六月一〇日)

〈国育4〉と同じ書名であるが、構成が異なる。課により平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八卷八冊。東京の育英舎刊。

- 1卷一「無題」19ウ(A 226) (絵)
本文は「カメ ガ イソグ。ウサギ ガ ヒルネス ル。」とあるのみ。

- 2卷四「第十六課 鼠ノソーダン」(A 613) (絵)
3卷五「第十二課 カウモリノ二心」(A 566) (絵)
4卷八「第十一課 地下の宝物」(A 42) (絵)

国樋1・樋口勘次郎・野田滝三郎合著『尋常国語教科書』(明治三四年六月一三日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の和装本。卷一は甲種と乙種とがあり全八卷九冊。東京の金港堂書籍刊。

樋口勘次郎、野田滝三郎については「修樋」『尋常修身教科書入門』(明治三四年)の項に記した。

1 甲種卷一 「ありはと」 18ウ (A 235) (絵)

水面上に浮かぶアリ、木の葉と樹上のハトの絵に添えて「アリガオヨグ／ハトガキノハヲ／オトス」の文があるだけだが、本書の教師用指導書である『尋常国語教科書教員用 上篇』(金港堂書籍、明治三四年七月二日)に以下の記述がある。

「一匹の蟻池にはまり溺れんとしつゝくるしみ居たり。一匹の鴿 樹上にあり、之を見て憐れみの心生じ、葉を落す。蟻、之によりて死を免るゝを得たり。蟻之を徳とす。／一人の獵師、鴿を打たんとねらふ、蟻即ち不意に其の足にくひつき、鴿をして飛び去らしめたり。」

2 卷三 「十 オヤ子ノカヘル」 (A 376) (絵)

3 卷四 「十六 ありときりぎりす」 (A 112・373) (絵)

4 卷五 「第十三 かめとうさぎ」 「第十四 かめとうさぎのうた」 (A 226) (絵)

5 卷五 「第二十二 二人ノタビビト」 (A 65) (絵)

国権2・樋口勘次郎・野田滝三郎著『高等国語教科書』(明治三四年六月一三日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八巻八冊。東京の金港堂書籍

刊。

樋口勘次郎、野田滝三郎については『修権』『修身』

教科書入門』(明治三四年)の項に記した。

1 卷二 「第十課 烏と狐」 (A 124)

国育6・育英舎編輯所編纂『小学国語教本 女子用』(明治三四年六月二〇日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八巻八冊。東京の育英舎刊。

1 卷二 「第五 胃の腑の働く口語体」 (A 130)

国小山1・小山左文二・武島又次郎合著『新編国語読本』(明治三四年六月二九日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の和装本。ただしページ付け。卷一は甲種、乙種とあり全八巻九冊。東京の普及舎刊。

小山左文二は実用的な教育書を多数著している。武島又次郎(羽衣)(一八七二~一九六七)は、滝廉太郎作曲の「花」(明治三三年)の作詞者として当時既に名が知られていたと思われる。

1 卷二 (無題) 29ペ (A 2926426) (絵)

2 卷二 (無題) 40ペ (A 133226426) (絵)

3 卷二 (無題) 46ペ (A 133226426) (絵)

国文学2・文学社編輯所編纂『高等日本国語読本』(明治三四年七月六日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり文語体の和装本。全八巻八冊。東京の文学社刊。

樋口勘次郎、野田滝三郎については『修権』『修身』

教科書入門』(明治三四年)の項に記した。

1 卷二 「第十課 烏と狐」 (A 124)

- 1卷一 「第三 志の定まらぬ人」 (A 721)
 2卷八 「第二十 肢体と胃腑との喻言」 (A 130)

- 国文学3 文学社編輯所編纂『尋常日本国語読本』(明治三四年七月一二日)
 イソップのある卷一は片仮名口語体の和装本。全八卷八冊。東京の文学社刊。

- 1卷一 「ウサギガネムル。カメガイソグ。」 20才 (A 226)
 (絵)

- 国坪4 坪内雄藏著『国語読本』(尋常小学校用) 訂正三版 (明治四年七月二八日)

〈国坪2〉『国語読本』(尋常小学校用) (明治三二年) の改訂版で、内容、構成に若干の相違がある。教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。

東京の富山房刊。全八卷八冊。

- 1卷一 「ハト。アリ。」 1ウ (A 235)
 2卷一 「ウサギ ガ ヤスム。」 10ウ (A 226)
 3卷一 「イヌ ガ ハシ ヲ ワタル。」 13才 (A 133)
 4卷三 「6 ねずみのそーだん」 (A 613)
 5卷三 「21 あほーがらす」 (A 472)
 6卷四 「15 アリトセミ」 (A 112 · 373)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。全八卷八冊。東京の富山房刊。扉には「文学博士坪内雄藏著」とあるが、刊記には坪内の名は校閲者としてあり、編纂者は富山房編輯部となつている。

- 1卷三 「第五課 胃の腑の説論」 (A 130)

- 国西沢3 西沢之助編『尋常小学国語読本』(明治三四年八月五日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の和装本。ただしページ付け。卷一、二はそれぞれ甲号、乙号とあり、全八卷一〇冊。東京の国光社刊。なお西沢之助が同社から出した同名の〈国西沢2〉(明治三二年)は別内容の本である。

西については〈国西沢1〉『尋常小学読本』(明治二八年)の項に記した。

- 1甲号二 「ダイ十一」 (A 133) (絵)
 2甲号二 「ダイ十二」 (A 224) (絵)
 3甲号二 「ダイ十三」 (A 226) (絵)
 4四 「第二十二 烏のきよーどー」 (A 390) (絵)

- 国小山2 小山左文二・加納友市合著『尋常国語読本』(明治三四年九月一二日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。甲篇、乙篇各四卷四冊、全八冊。

- 国坪5 坪内雄藏著『国語読本』(尋常小学校用) (明治三四年七月二九日)

国坪5 坪内雄藏著『国語読本』(尋常小学校用) (明治三四年七月二九日)

東京の集英堂刊。

小山左文二については〈国小山1〉『新国語読本_{尋常小学校}』(明治三四年)の項に記した。加納友市(一八六四～一九二六)は各地の師範学校で教壇に立ち、教育学、教授法に関する著書を持つ。

1 甲篇卷一「第二十課 狐と鳥」(A 124)

七五調の韻文。

2 乙篇卷一「第十七課 獅子恩ヲ知ル(二)」(A 563 a)

「第十八課 獅子恩ヲ知ル(二)」(A 563 a)

国大日・大日本図書編輯『日本国語読本 対常科』(明治三四年九月二二日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。卷一は二冊あり、全八卷九冊。東京の大日本図書刊。

1 卷八「九、協同」(A 130)

国小山3・小山左文二・加納友市合著『尋常国語読本 児童用』(明治三四年九月二三日)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の和装本。卷五・六にはそれぞれ甲乙二篇二冊あり、全六卷八冊。東京の集英堂刊。

小山左文二については〈国小山1〉『新国語読本_{尋常小学校}』(明治三四年)、加納友市については〈国小山2〉『新国語読本 児童用』(明治三四年)の項にそれぞれ記し

た。

1 卷一「無題」14才 (A 226) (絵)

本文は「カメ ヨ ヤスマナ。ヤスマナ カメ ヨ。」とあるだけだが、絵には眠るウサギと進むカメが描かれている。

2 卷二「八 カメ ト ウサギ」(A 226) (絵)

3 卷二「十二 よくのふかい いぬ」(A 133) (絵)

4 卷二「十三 あり と きりぎりす」(A 112・373) (絵)

国高知・高知県教育会編纂『国語読本_{尋常小学校用}』(明治三四年一月三日)

坪内雄藏校閲。〈国坪4〉『国語読本_{尋常小学校用}』訂正三版(明治三四年)とほとんど変わらない。丁付けが多少変わる。教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。文語体も口語体もある。東京の富山房刊。全八卷八冊。

1 卷一「ハト。アリ。」1ウ (A 235)

2 卷一「ウサギ ガ ヤスム。」11ウ (A 226)

3 卷一「イヌ ガ ハシ ヲ ワタル。」14才 (A 133)

4 卷三「6 ねずみのそーだん」(A 613)

5 卷三「21 あほーがらす」(A 472)

6 卷四「15 アリトセミ」(A 112・373)

国小山4・小山左文二・武島又次郎合著『新編国語読本_{高等小学校}』(明治三五年二月一五日)

課により漢字平仮名あるいは片仮名交じりの和装本。

文語体も口語体もある。全八巻八冊。東京の普及舎刊。

小山左文二、武島又次郎については（国小
春子、へきじ

〔編新刊。和装本。全八卷八冊。東京の文学社刊。1卷一（無題）22ウ（A226）（絵）

国語読本兒童用 (明治三四年) の項に記したもの
1卷一「第二十一課 狐と鳥」(A 124) (絵)

国文学 5 .. 文学社編輯所編纂『尋常國語教科書』(明治三

2卷二「第十課 獅子ノ恩ガヘシ(一)」「第十一課 獅子ノ恩ガヘシ(二)」(A 563 a) (絵)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の和装本。全八巻八冊。東京の文学社刊。巻一は『国文学

國光・國光社編輯所編纂『國民讀本』尋常小學教科用（明治三五年）

1卷一(無題)
4 22 ウ (A
3226
(絵)

三五年八月三一日

3巻四 「だい八 せみとみつばち」 (A 112)
373 (絵)

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の和装本。ただしページ付け。全八巻八冊。東京の国光社

國一 文部省著作『尋常小學讀本』(第一期國定)

二
（通編）一
%4
A)
26

甲・五（明治二六年九月九日）

2卷一（無題） 54.（A 235）（繪）

尋常小学校用の第一期の国定教科書。漢字平仮名ある。は片仮名交じりの洋装本。口語本も文語本もある。全

1卷一（無題） 14
（A 5226） 絵

日・五（明治三六年九月九日）

本文は「ありが、みづに、くるしんで、ゐます。あれ、あれ、きのはが、ひらひらおちる。」とあるだけだが、絵には木に止まる小鳥が描かれていて、イソップの「アリとハト」に基づいている。

いは片仮名交じりの洋装本。口語体も文語体もある。全八冊。実際の編集は教科書審査官吉岡郷甫が主に担当したという。許可された多数の民間業者によつて刊行された。

三卷四 「第二課 烏」 (A 390) (繪)

国文学4.. 文学社編輯所編纂『単級国語教科書』(明治

3 2 1
二 二 二
無題 無題 無題
2 46 42 37
二 二 二 二
A A A
180133281
絵 絵 絵

三年九月—四年

教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の

5三
「ダイ九
カシノキトタケ。」（A
70）

6 五 「だい六 ひばりと人。」 (A 6325) (絵)
7 五 「ダイ十四 カウモリ。」 (A 566) (絵)

チバシ 18^ペ (A 426) (絵)
ツルとキツネの絵。

国国一2 文部省著作『高等小学読本』(第一期国定)
二(明治三七年二月六日)・四(明治三七年二月二八日)
・五(明治三六年一一月三日)

高等小学校用の第一期の国定教科書。漢字平仮名まれに片仮名交じりの洋装本。口語体も文語体もある。全八冊。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。

1 二 「第十九課 二人の旅人と熊。」 (A 65) (絵)
2 四 「第十九課 老人と驢馬との話。」 (A 721) (絵)
3 五 「第三課 胃の説論。」 (A 130)

国国二1 文部省著作『尋常小学読本』(第二期国定)
卷一(明治四二年九月一〇日)・卷一(明治四三年五月一〇日)・卷五(明治四二年一〇月)・卷八(大正二年三月一〇日)

尋常小学校用の第二期の国定教科書。漢字平仮名あるいは片仮名交じりの洋装本。口語体も文語体もある。全一二卷一二冊。起草委員は芳賀矢一、乙竹岩造、三土忠造、起草委員補助は高野辰之。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。

1 卷一(無題) 12^ペ (A 226) (絵)
カメとウサギが向かい合つてある絵のみ。
2 卷一「アサイ ハチ フカイ ツボ ホソナガイ ク

3 卷二「七 イヌ ノ ヨクバリ」 (A 133) (絵)

4 卷五「第十八 カウモリ」 (A 566) (絵)
5 卷五「第二十三 鹿ノ水カドミ」 (A 74) (絵)
6 卷八「第二十 胃と身体」 (A 130)

国国二2 文部省著作『秋季尋常小学読本』(第二期国定)
卷一(明治四二年九月一日)・卷二(大正元年一〇月二五日)

第二期の国定読本教科書には、僻地などの秋季始業校用に、(国国二1)『尋常小学読本』の教材を再編成した本書がある。したがつて採用された教材の内容は(国国二1)に一致する。全四卷四冊。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。

1 卷一(無題) 13^ペ (A 226) (絵)
2 卷一「アサイ ハチ フカイ ツボ ホソナガイ ク
チバシ 18^ペ (A 426) (絵)
3 卷二「七 イヌ ノ ヨクバリ」 (A 133) (絵)

国国二3 文部省著作『第二種尋常小学読本』(第二期国定)第一学年用上(大正二年一二月二五日)・同下(大正二年一二月二五日)・第二学年用下(昭和六年二月二三日)

第二期の国定読本教科書には、複式学級用に、(国国二1)『尋常小学読本』の教材を再編成した本書がある。

全一二冊。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。なお、「第二学年用下」は大正三年には発行されているはずであるが、昭和期になつてからの原本しか見ることができなかつた。

- 1 第一学年用上「カメ ウサギ」(13^ペ) (A 226) (絵)
2 第一学年用下「七 イヌ ノ ヨクバリ」(A 133) (絵)
3 第二学年用下「十三 土 の 中 の たからもの」
(A 42)

国国三一 文部省著作『尋常小学国語読本』(第三期国定) 卷二(大正六年六月二〇日)・卷三(大正六年一月五日)・卷四(大正八年一二月八日)・卷五(大正八年一二月五日)

第三期の国定教科書。漢字平仮名あるいは片仮名交じりの洋装本。口語体も文語体もある。全一二卷一二冊。国定第三期には二種類の読本教科書が発行され、地域によつてどちらかが使用された。一つは第二期の修正版である本書であり、他は新たな方針の下に編集された(国三一)『尋常小学国語読本』である。本書は芳賀矢一、三土忠造などが修正の任に当たつたという。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。

- 1 卷一「ウサギ ト カメ ウサギ ノ ヒルネ」13^ペ
(A 226) (絵)
2 卷一「アサイ ハチ フカイ ツボ ホソナガイ クチバシ」18^ペ (A 426) (絵)
3 卷二「七 ヨク ノ フカイ 犬」(A 133) (絵)
4 卷三「二十七 馬ヌスピト」(36)
5 卷五「第二十三 かうもり」(A 566)

- 1 卷二「六 犬 ノ ヨクバリ」(A 133) (絵)
2 卷二「十二 ネズミ ノ チエ」(A 613) (絵)
3 卷三「二十三 カウモリ」(A 566) (絵)
4 卷四「十 日 と 風」(A 46)
5 卷五「二十五 熊のさゝやき」(A 65) (絵)

国国三二 文部省著作『尋常小学読本』(第三期国定) 卷一(大正七年二月五日)・卷二(大正六年一一月三〇日)・卷三(大正六年一二月二〇日)・卷五(大正九年一月一五日)

第三期の国定教科書。漢字平仮名あるいは片仮名交じりの洋装本。口語体も文語体もある。全一二卷一二冊。国定第三期には二種類の読本教科書が発行され、地域によつてどちらかが使用された。一つは第二期の修正版である本書であり、他は新たな方針の下に編集された(国三一)『尋常小学国語読本』である。本書は芳賀矢一、三土忠造などが修正の任に当たつたという。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。

- 国国四 文部省著作『小学国語読本』(第四期国定) 卷一(昭和七年一二月二五日)・卷二(昭和八年七月一日)・卷三(昭和九年二月一四日)
- 第四期の国定教科書。漢字平仮名あるいは片仮名交じりの洋装本。口語体も文語体もある。全一二卷一二冊。

日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。

1卷一（無題）48^ペ（A 150226）（総）

2卷一（無題）50^ペ（A 150）（総）

3卷一「十 ネズミノコメイリ」（A 619）（総）

4卷一「十 蛙」（A 376）（総）

5卷一「十七 ねずみのちゑ」（A 613）（総）

6卷一「二十 金のをの」（A 173）（総）

参考

三原時信・谷保子訳『英語国語読本』（昭和一五年七月）

英語書名は *Japanese Reader*。第四期国定教科書『小学

国語読本』の卷一までの対訳本。見開きの左ページに日本語本文をローマ字で、右ページにその英語対訳文を示す。絵はない。東京の、日本のローマ字社刊。

1 Book1 p.12

2 Book1 p.12

3 Book2 10.THE MOUSE'S WEDDING

4 Book3 10.THE STORY OF A FROG

5 Book3 17.THE WISDOM OF A MOUSE

6 Book3 20.THE GOLDEN AX

三原時信・谷保子訳『対訳日本小学国語読本』（昭和一六年）

英語書名は *Parallel Translation of the Japanese Primary*

School Reader。アメリカの日系一世の日本語教育用として

作成された、第四期国定教科書『小学国語読本』の卷

六までの対訳本。見開きの左ページに日本語本文をローマ字で、右ページにその英語対訳文を、左右の下欄に日

本語本文を漢字仮名交じりで示す。英訳は『英語国語読本』を多少手直ししている。『小学国語読本』の絵も載せるが、更に独自の絵も加える。東京の、日本のローマ字社刊。

1 Book1 p.21

2 Book1 p.23

3 Book2 10.THE MOUSE'S WEDDING

4 Book3 17.THE WISDOM OF A MOUSE

5 Book3 20.THE GOLDEN AX

国国五1：文部省著作『コマカタ／よみかた』（第五期国定）11（昭和一六年八月一一日）11（昭和一六年三月七日）

第五期の国定教科書。国民学校初等科第一学年用二冊は「コマカタ」、第二学年用二冊は「よみかた」。前者は僅かの漢字と片仮名、後者は漢字平仮名交じり口語体の洋装本。全四冊。〈国国五2〉『コトバノオケイコ／ことばのおけいこ』（昭和一六年）と連動している。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。

111「11 ウサギトカメ」（A 226）（総）

211「十七 ネズミノコメイリ」（A 619）（総）

333「八 蛙」（A 376）（総）

433「十二 ねずみのちゑ」（A 613）（総）

国国五2：文部省著作『コトバノオケイコ／ことばのお

けいこ』（第五期国定）一（昭和一六年三月一七日）・二（昭和一六年八月一六日）・三（昭和一六年三月二六日）

第五期の国定教科書。国民学校初等科第一学年用二冊は「コトバノオケイコ」、第二学年用二冊は「ことばのokeいこ」。前者は僅かの漢字と片仮名、後者は漢字平仮名交じり口語体の洋装本。全四冊。『国国五1』『ヨミカタ／よみかた』（昭和一六年）と連動して、文字や表記を学ぶ教科書。日本書籍、東京書籍、大阪書籍の三社から刊行された。

1一（無題）17ペ（A426）（絵）

狐のそばで鶴が皿の汁を飲もうとする絵。

2二「三 ウサギト カメ」（A226）

3二「十七 ネズミノ ヨメイリ」（A619）

4三「八 蛙」（A376）

5三「十二 ねずみの ちゑ」（A613）

3 中等学校用教科書

イソップ寓話は一般には子ども向けの童話と見なされていた。それ故中等教育機関である旧制中学校、高等女学校の教科書に載るのは数少ないが、いくつか例を見出すことができる。以下に示した教科書はいずれも漢字平仮名交じりの洋装本である。中等段階なので文語体が多い。

国国六・文部省著作『こくご／国語』（第六期国定）二（第一学年後期用）（昭和二二年一〇月一〇日）・第三学年下（昭和二二年一月二五日）・第五学年下（昭和二三年一月二五日）

第六期の国定教科書。戦後最初の国語教科書である。

石森延男を中心にも多くの学者、文学者が編集に加わる。

第一、二学年用の四冊までが「こくご」、第三学年用以降が「国語」。全一五冊。漢字平仮名交じり口語体の洋装本。韻文には文語体もある。日本書籍、東京書籍、大

阪書籍の三社から刊行された。

1二「五 おはなし（一）」（21）（絵）

2第三学年下「二 イソップものがたり ありとほど」（A235）（絵）

3第三学年下「一 イソップものがたり ありとほど」（A112・373）（絵）

4第五学年下「十一 ある写真帳 イソップ物語」109ペ（写真）

ESOPO NO FABVLAS の紹介

期である。上田敏（一八七四～一九一六）は明治三〇年東京帝国大学英文科を卒業し、当時は東京高等師範学校教授であつたと思われる。上田も大学を卒業したばかりで、学者としても詩人としても高名であつたわけではない。なお、上田がイソップ研究上重要な「伊曾保物語考」の講演を行うのは一〇年後のことである。

1五の卷「第七 中間と侍と馬をあらそふ事（伊曾保物語）」（36）

2六の卷「第五 出家と盜人との事（伊曾保物語）」（08）

文語体。

2六の卷「第五 出家と盜人との事（伊曾保物語）」（08）

文語体。

中武・武島又次郎編『中学帝国読本』（明治三五年一二月一八日）

東京の金港堂書籍発行の中学校国語教科書。全一〇巻

一〇冊。仮名草子『伊曾保物語』から一話採られている。

武島又次郎については『国小山1』『新編国語読本』（尋常小学校児童用）

（明治三四年）の項に記した。

1卷一「一〇 法師と盜人との話」（08）

文語体。

中上・上田万年編『大正改版中学読本』（大正元年一一月五日）

東京の大日本図書発行の中学校国語教科書。全九巻九

冊か。上田万年（一八六七～一九三七）は、当時東京帝国大学教授で、同じ出版社発行とはいえ、『中大』『新体中学国文教程』（明治三二年）とは異なりこれは編者として最高権威を起用している。上田は『新訳伊蘇普物語』（鐘美堂、明治四〇年）を五年前に出している。

1卷二「二四 古譚二則 一 力の神」（A291）

末尾に「（伊蘇普物語）」とある。上田の『新訳伊蘇普物語』と比較すると、『新訳』の口語体をほぼ文語体に置き換えた本文といえる。

中金・金沢庄三郎著『高等女学校用国語教科書』（大正四年一〇月二日）

東京の弘道館発行の高等女学校用国語教科書。全八巻

八冊。金沢庄三郎（一八七一～一九六七）は、当時『辞林』（三省堂、明治四〇年）の監修者として知られている。

1卷二「七 伊曾保物語 一、鳩と蟻との事」（A235）

（絵二図）

絵は『伊曾保像（ヴエラスケス筆）』と万治整版本『伊

曾保物語』の絵の二図。口語体。

2卷二「七 伊曾保物語 二、鶏と下女との事」（A

55）

口語体。

中明・明治書院編輯部編纂『女子国文選』（昭和二年一〇月二三日）

○卷一〇冊。イソップ寓話が四話まとめて掲載されている。末尾に「—楠山正雄訳、イソップ物語」とある。いずれも口語体で、楠山正雄訳『新訳イソップ物語』(富山房、大正五年九月)に拠る。ただし表記は多少変えている。掲載順も楠山本と一致する。挿絵は楠山本の絵の模写といえる。

1卷一「一七 負惜み 楠山正雄／狐と葡萄」(A 15)

(絵)

2卷一「一七 負惜み 楠山正雄／狐と河」(A 232)

3卷一「一七 負惜み 楠山正雄／遊獵家と樵夫」(A 326)

(絵)

4卷一「一七 負惜み 楠山正雄／鶴と鳥網打」(A 193)

(絵)

中藤・藤村作・島津久基共編『改訂中等新国文』(昭和六年八月三日)

東京の至文堂発行の中学校用国語教科書。全一〇卷一

○冊。藤村作(一八七五、一九五三)は当時東京帝国大学教授。島津久基(一八九一、一九四九)は病気のため辞職するが、大正一五年まで東京帝国大学助教授であつた。権威者を編者に当てたといつてよいだろう。仮名草子「伊曾保物語」から二話を採つてある。

1卷二「五 伊曾保物語抄 一 龍と人との事」(A 640 a) (絵)

文語体。絵は万治整版本『伊曾保物語』のもの。

2卷二「五 伊曾保物語抄 二 鼠ども談合の事」(A 613) (絵)

文語体。絵は万治整版本のではない。

4 外地用教科書

日本の領有するところとなつた台湾・朝鮮半島、委任統治領となつた南洋群島、更には旧満洲、これらいわゆる外地においても初等教育用の日本語教科書が刊行されている。これにもイソップ寓話がときに見られる。

外地用教科書は、原本以外に以下の文献にある複製も利用した。

・宮脇弘幸監修『南洋諸島国語読本』全八卷(大空社、二〇〇六年一〇月二四日)

・『旧植民地・占領地域用教科書集成』第一～二〇卷(あゆみ出版、一九八五年)

・磯田一雄・榎本瑞生・竹中憲一・金美花編『在満日本人用教科書集成』全八卷(柏書房、二〇〇〇年一月三〇日)

南洋諸島の教科書の概要は多くを以下の論考に拠つた。

・宮脇弘幸「解説 南洋教育と『国語読本』」(『南洋諸島国語読本』第一卷所収)

外台1・台湾總督府著作『台灣教科用書國民讀本』卷五(明治四年七月五日)・卷六(同年五月一五日)・卷七(同年

二月二二日)

(A 112 · 373) (絵)

台湾の児童向けの日本語読本教科書。筆者が見たのは明治四一年刊行であるが、明治三四年から使用されたと思われる。漢字平仮名あるいは片仮名交じりの口語体和装本。助詞「は」を「ワ」と表記するなど発音に近い仮名遣いを採用している。全一二卷一二冊。台湾総督府刊。

1 卷五 「第八課 犬と肉」 (A 133) (絵)
2 卷六 「第十三課 蟻ときりぎりす」 (A 112 · 373) (絵)
3 卷七 「第八課 蟻と水牛の話」 (A 255) (A 74)

74) とを組み合わせたと思われる。

外台2・台湾総督府著作『公學国民読本』卷三 (大正二年二月二八日) · 卷四 (大正二年六月二八日) · 卷七 (大正三年二月二八日)

卷三・四是漢字片仮名交じり、卷七は課により漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の洋装本。仮名遣いは歴史的仮名遣い。全一二卷一二冊。台湾総督府刊。

1 卷三 「五 ウサギ ト カメ」 (A 226) (絵)
2 卷四 「第六 犬 ノ ヨクバリ」 (A 133) (絵)
3 卷四 「第十 カラス ノ チエ」 (A 390) (絵)
4 卷七 「第十課 たとへ話 (一) 二匹の山羊」 (2 1) (絵)
5 卷七 「第十課 たとへ話 (二) 鹿の水鏡」 (A 74)
6 卷七 「第十課 たとへ話 (三) 蟻ときりぐす」

外台3・台湾総督府著作『蕃人読本』卷三 (大正五年二月二九日)

台湾原住の民族である平埔族の児童のための教科書。卷三は片仮名主体の漢字交じり口語体の洋装本。発音に近い仮名遣いを用いる。全四卷四冊。台湾総督府刊。

1 卷三 「八 カラス ノ チエ」 (A 390) (絵)

外南1・臨時南洋群島防備隊司令部著作『南洋群島国語読本』

(第一次) (大正六年三月二〇日)

南洋群島には当初は四年制の小学校、大正七年からは三年制の島民学校（後に公学校）が置かれた。これら初等教育において使われた日本語の読本。片仮名口語体の洋装本。「著作兼発行者」は臨時南洋群島防備隊司令部となつていて、事実上の編者は司令部付教育主任の杉田次平。卷二是片仮名分かち書きで、助詞「は」を「ワ」と表記するなど発音に近い仮名遣いを採用している。全二卷二冊。同司令部刊。

1 卷二 「十三 イヌ ノ ヨクバリ」 (A 133) (絵)

外朝1・朝鮮総督府著作『普通学校修身書』 (大正一一年一〇月三日)

朝鮮における初等教育機関である「普通学校」の修身教科書。普通学校には朝鮮半島出身者が通い、内地人は

それとは別の「小学校」に在籍する。漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の洋装本。卷一にはハングルによる対訳も付く。全六卷六冊。朝鮮総督府刊。

1卷一「十七」(A 210) (絵)

狼に追われる子どもの絵のみだが、『教師用』は「第十七 ウソヲ言フナ」とあり、話の本文、そのハングルによる訳文も載せる。

外朝2..朝鮮総督府著作『普通学校国語読本』(大正一三年一月三一日)

朝鮮半島出身児童が通う普通学校用の国語(日本語)読本。漢字平仮名交じりの洋装本。口語体が主だが、一部文語体もある。全八卷八冊。朝鮮総督府刊。仮名遣いは歴史的仮名遣いを採用し、南洋群島の教科書のような特別の配慮は見られない。

1卷七「第二十 美しい角」(A 74) (絵)
口語七五調の詩形。

外南2..南洋庁著作『南洋群島国語読本 本科用』(第二次)

(大正一四年二月一二日)

第二次の公学校本科用日本語教科書。漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の洋装本。発音に近い仮名遣いを採用している。全三卷三冊。「著作兼発行者」は南洋庁であるが、事実上の編纂者は文部省図書編輯官の芦田恵之助(一八七三~一九五一)。

芦田は芦田教式を唱えて大きな影響力を持つた国語教育者。

1卷三「十七 ヤギ」(21)

外南3..南洋庁著作『南洋群島国語読本 準習科用』(第二次)

(昭和二年一二月二十五日)

三年制の「島民学校」「公学校」の上に、支庁所在地に設置された二年制の補習科用の教科書。教材により漢字平仮名あるいは片仮名交じり口語体の洋装本。発音に近い仮名遣いを採用している。全二卷二冊。「著作兼発行者」は南洋庁だが、事実上の編者は芦田恵之助。

芦田については「外南2」『南洋群島国語読本 本科用』(大正一四年)の項に記した。

1卷一「二十三 胃トカラダ」(A 130)

外満..南満洲教育会教科書編輯部著作『満洲補充読本』(昭和六年四月)

満洲在住の日本人児童用の読本。全八卷八冊。同編輯部刊。一の巻は片仮名分かち書き口語体の洋装本。

1卷一の巻「二十 キコリ トヲノ」(A 173)

外南4..南洋庁著作『南洋群島国語読本 本科用』(第三次)

(昭和七年三月二十五日)

第三次の公学校本科用日本語教科書。口語体の洋装本。卷二は漢字片仮名交じりとし、卷三以降は平仮名も使わ

れる。卷四までは分かち書き。発音に近い仮名遣いを採用している。全六卷六冊。「著作兼発行者」は南洋庁だが、事実上の編者はマルキヨク公学校長岩崎俊春。

1卷二「七 犬 ノ ヨクバリ」(A 133)

2卷二「十三 ネズミ ノ チエ」(A 133)

本文中のタイトルでは「チエ」は「チエ」と表記される。

3卷三「二十一 こうもり」(A 566)

4卷四「十八 土 の 中 の たから物」(A 42)

5卷五「二十七 熊のさゝやき」(A 65)

外南5・南洋庁著作『公学校本科国語読本』(第四次) (昭和一

二年三月二十五日)

外南5・南洋庁著作『公学校本科国語読本』(第四次) (昭和一

二年三月二十五日)

1卷二「第十二 胃ト体」(A 130)

第四次の公学校本科用日本語教科書。口語体の洋装本。

五 対照表

卷一、二は片仮名分かち書き。卷三以降平仮名が加わる。卷四以降漢字が加わる。卷四までは分かち書き。発音に近い仮名遣いを採用している。全六卷六冊。「著作兼発行者」は南洋庁だが、事実上の編者は元和歌山県立伊都中学校長梅津隼人(一八八四~一九六一)。

【凡例】

1 寓話の配列は B. E. Perry の *Aesopica* の番号に従つた。*Aesopica* によってイソップ寓話と認めた寓話は、以下のように仮のタイトルと番号(括弧内に二桁の全角算用数字で示す)を付した。

1卷一(無題) 62ペ(A 150226) (絵)
2卷一(無題) 64ペ(A 150226) (絵)
3卷二「十一 ヨクノフカイイヌ」(A 133) (絵)
4卷二「二十三 ハトトアリ」(A 235) (絵)
5卷三「十九 コウモリ」(A 56) (絵)
6卷四「十二 土 の 中 の たからもの」(A 42)

7卷四「十六 うしとかえる」(A 376) (絵)
8卷五「二十三 金のおの」(A 173) (絵)
9卷六「第二十 ろばと日かげ」(A 460) (絵)

外南6・南洋庁著作『公学校本科国語読本』(第四次) (昭和一
二年三月二十五日)

第四次の公学校補習科用日本語教科書。教材により、漢字片仮名あるいは平仮名交じり口語体の洋装本。発音に近い仮名遣いを採用する。全四卷四冊。「著作兼発行者」は南洋庁だが、事実上の編者は梅津隼人。梅津については(外南5)『公学校本科国語読本』(昭和一二年)の項に記した。

1 寓話の配列は B. E. Perry の *Aesopica* の番号に従つた。*Aesopica* によってイソップ寓話と認めた寓話は、以下のように仮のタイトルと番号(括弧内に二桁の全角算用数字で示す)を付した。

(01)少女と牛乳壺・空想にふけっている娘が牛乳壺を落としてしまう。

(02) アザミと子ども..アザミ(トゲのある草)に傷ついた子に母親が次は力を入れてつかめと諭す。

(03) 欲張る子ども..中の木の実をいっぱい取ろうと壺に手を入れたが手の抜けない子どもに、側の人が半分で我慢すればよいと諭す。

(04) 取り除かれた生け垣..生け垣なんか不要だと取り除いたために、人や動物が勝手に出入りして畠が荒らされる。

(05) 子どもとカエル..石を投げつける子どもたちに対しカエルがやめろと抗議する。

(06) 三人の職人..敵から守る手段として、職人三人がそれぞれ我田引水の主張をする。

(07) ライオンの威を借るロバ..ライオンの威を借りるロバが結局ライオンに殺される。

(08) 盗人と法師..盗人が法師の教えにより改心する。

(09) イタチとネズミ..体の弱ったイタチがネズミをだまし殺すが年寄りのネズミはだまされない。

(10) 羊飼いを追い出すオオカミ..メスオオカミが子を産むために羊飼いに場所を借りて遂には羊飼いを追い出してしまう。

(11) ロバを相手にしないライオン..ロバがライオンを侮辱するが、最初は怒ったライオンも最後は取るに足らぬ奴と相手にしない。

(12) 熊と蜂..蜂の巣を奪つて蜜をなめ尽くした熊が蜂に仕返しされる。

(13) ウサギと猟犬..花園を荒らすウサギを退治しようと猟犬を使つて、かえつて猟犬に一層花園を荒らされてしまう。

(14) 仕立て師と芸人..飢饉に際して、仕立てが取り柄だけの仕立て師は仕立てで口を糊ることができたが、多芸を誇った芸人は芸を活かすことができなかつた。

(15) 植え換えた木..実のなる木を自分の物にしようと植え換えたために木を枯らしてしまう。

(16) イソップの忠告..罪人を溺れさせて浮くか沈むかでの罪を判断することの不当をイソップが説く。

(17) 太鼓と花瓶..太鼓が音を自慢し、花瓶がそれに反論する。

(18) 石のステップ..貧乏な男が金持ちの家で石を使って到頭ステップを作つてしまふ。

(19) キツネと鶏..畠にかかったキツネを鶏が農夫に伝え、キツネは捕まつてしまふ。

(20) ヤマアラシと蛇..蛇の巣を借りたヤマアラシのトゲを嫌つた蛇が立ち退きを要求してもヤマアラシは出て行かない。

(21) 二匹のヤギ..橋で出逢つた二頭のヤギが互いに譲らず遂には二頭とも川に落ちてしまう。

(22) 火中の栗..猿にそそのかされて猫が火の中から取りだした栗を猿がすべて食べてしまう。

(23) ヒヨウタンと松..ヒヨウタンが成長の早さを松に自慢すると、松がヒヨウタンは霜で簡単に枯れてしまうとたしなめる。

(24) アラビア人を追い出すラクダ..ラクダがアラビア人にテントを借り、遂にはアラビア人を追い出してしまう。

(25) 象とネズミと猫..ネズミが象を大きいだけだと批判し

ているときに猫に食べられてしまう。

(26) 目の不自由な人と足の不自由な人・目の不自由な人と足の不自由な人がお互い助け合って旅行する。

(27) ロバと猿とモグラ・角がないロバと尾のない猿がその不足に愚痴をいようと、目の見えないモグラがそれをたしなめる。

(28) 井戸に落ちたキツネ・井戸に落ちたキツネに助けを求めるされたオオカミが一向に実行しない。

(29) ライオンとネズミの結婚・メスライオンと結婚したネズミが花嫁に踏みつぶされる。

(30) トビにさらわれるカエルとネズミ・一騎打ちをしてい るカエルとネズミをトビが一挙にさらって行く。

(31) キツネとウサギの願い・キツネが長い脚を、ウサギが知恵を神に願い、神にたしなめられる。

(32) 愛の神と死の神・愛の神の矢と死の神の矢とが混じり合ってしまう。

(33) ツバメとツグミ・ツバメとツグミ（ムクドリ）が仲違 いして交際を断つ。

(34) 命乞いするタカ・ハトを追つたタカがカラスを捕る網にかかるて、農夫に命乞いをするが聞き入れられない。

(35) 自慢する土器・完成前の土器が貴人に提供されると自慢するが、雨で土に戻ってしまう。

(36) 馬の裁判・馬を奪い取った者がイソップの頓智でやりこめられる。

(37) 所用時間を答えるイソップ・村までの所要時間を尋ねられたイソップが、旅人が歩き始めてから答える。

(38) 木々とトネリコ・木々が木こりに提供したトネリコが斧の柄となつて木々が倒される。（A 302・303 に似るが別とする）

2 *Aesopica* 中の寓話タイトル名は、1～471は中務哲郎訳『イソップ寓話集』（岩波書店、一九九九年三月）に、472～579は岩谷智・西村賀子訳『イソップ風寓話集』（国文社、一九九八年一月）に従つた。ただし、漢字表記は極力常用漢字の範囲にとどめるため改めた。他は Perry の *Babrius and Phaedrus* (Harvard University Press, 一九六五) の英文タイトルを和訳した。

3 各教科書はこの小論で付けた略記で示した。ただし、修身教科書、国語教科書は独立して欄を設けたので、略記の最初の「修」「国」を省いた。教科書名に続き括弧内に寓話掲載箇所を示した。掲載箇所は、巻・編など上位分類があれば、それを漢数字で示した。「上」卷」「前編」など数字によらない場合は「上」「前」などで示した。次に各教科書内での教材番号などを算用数字で示した。それが無い場合は、丁付またはページを「54」「p16」のように算用数字で示した。

国定廃止までの教科書掲載イソップ寓話対照表

Aesopica番号とタイトル	修身教科書	国語教科書	中等教科書 外地用教科書
7猫のお医者と鶴		国一(二)92)	
15キツネとドウ		三宅(一)15)・新2(一)16)	中明(一)17)
22キツネときこり		内3(四)43)	15
32人殺し		井上2(三)41)	22
42農夫と息子たち		市(三)・原(五)45)・阿(二)4)・鈴(五)27)・新1(四)25才)・高橋1(四上 42)・中根1(四)9)・島(七)6)・金1(下)10才)・金3(八)28才)・山1(四)22)・ 山2(六)5)・渡(五)2才)・青3(八)12)・青5(八)11)・国二3(二)13)	32
43水を探すカエル		阿(二)48)	42
46北風と太陽	木1(五)14)	普2(三)2)・右(四)22)・国三1(四)10)	43
53兄弟げんかする農夫と息子	木1(五)10)	井上1(四)2)	46
55女主人と使い使い	国一(四)8)・国二(三)24)	農(四)6:7)	53
58女主人とメント			55
65旅人ヒクマ	育1(二)21)	久(三)・阿(五)16)・猿(一)16才)・井上1(四)18)・寝苦(四)上8)・工 (六)4)・吉賀(六)14)・中原1(五)9)・興(六)9)・育3(五)20)・育4(五)20)・極 1(五)22)・国一2(二)19)・国三1(五)25)	58
67旅人ヒの	育1(三)8)	内1(二)14)・阿(二)65)・内2(二)14)	67
69魔道士の力エル	光(二)1)		69
70カジヒアシ	龍1(二)10)	新1(四)30才)・内3(五)14)・国一1(三)9)	70
73イルカと猿	青山(五)18)		73
74水辺の鹿	青山(五)18)		
80八王	沢(三)9)	文部1(四)23)・右(八)17)・国二1(五)23)	74
87金の卵を生むガチャウ	青山(五)18)	原(五)28)	80
91じゃれつづロバと主人	青沢1(四)9)		87
101コクマガラスと鳥たち	阿(三)5)		91
112アリとセンチコガネ	光(一)29)		101
124カラスとキツネ	木1(十)5)・吉見(前)8)・岸(一)95)・龍2(一)24)・ 岡(一)98)・小(七)8)・学1(二)5)・学2(一)23)・金 (甲)6)・右(二)9)・育2(一)23)・光(一)13)・国四 (二)11)	辻(続)4才)・中島(四)6・大4)・池(二)13)・阿(一)58)・内3(五)21)・中川 (七)22)・下(四)21)・木(四)12・13)・青1(四)7)・学海(八)19)・坪1(四)15)・ 普2(二)26)・坪2(四)15)・金8(四)8)・龍1(四)6)・坪4(四)15)・小山3 (二)13)・高知(四)15)・文學6(四)8)・國大(三)下2)	112
130胃袋ヒ足	内3(五)18)・西原(二)6)・東(三)2)・三宅(一)3)・金2(上)17才)・金7 (一)18)・文部3(五)6)・金9(一)17)・龍2(二)10)・西沢3(甲)12)・小山2 (甲)20)・小山4(一)22)	外合1(六)13)・外合2 (七)10-3)	124
133肉を運ぶ犬	内1(二)17)・井上1(五)7)・三尾(三)上1)・内2(二)17)・佐2(二)8)・高橋 (二)10)・岡(一)下2)・龍(下)17)・三宅(二)10)・井上2(七)7)・金2(上) 三17才)・金5(四)11)・金6(四)12)・坪3(三)5)・金9(四)18)・青6(二)5)・文 (二)11)	外南3(一)33)・外南6 (二)12)	130
137蚊ヒ牛	学1(二)19)・坪5(三)5)・金9(一)17)・龍2(二)5)・国二1(八)20) 原(四)36)・吉澤(五)10)・輪(五)33)・竹(三)43)・吉賀(四)19)・文部(二) 19)・西郷(四)14)・井上2(二)53)・青1(四)10・11)・山1(二)12)・興(四) 10)・青2(二)19)・大矢(二)16)・文部2(三)12)・文部3(三)14)・青3(三) 14)・坪1(一)24才)・青4(三)14)・小山1(二)14)・坪4(一)13才)・青5(二)5)・文 (甲)11)・小山3(二)12)・高知(一)1才)・文學5(二)14才)・國一1(二) p42)・國二1(二)7)・國二2(二)7)・國二3(一)下7)・國三1(二)6)・國三2 (二)7)	外台1(五)8)・外台2(四 6)・外南1(二)13)・外南4(二)7)・外南5(二)11)	133
137蚊ヒ牛	能1(三)5)		137

139カモメヒトビ	青1(三三)		139	
150ライオンとネズミの恩返し	躰(二10)	鳥(24)・西郷(五5)・興(六15・16)・国四(一-p50)	150	
151一緒に持りをするライオンとロバ	森(一-16才)		151	
156オオカミヒサギ	木1(六1)		155	
157オオカミヒヤギ		池(一4)	157	
168遷徙者ヒ海		井上2(一34)	168	
173きこりヒヘルメス		池(一2)・家2(一19)・吉賢(大4・5)・内2(四4)・中原1(八14)・新2(一-p34)	173	
175旅人ヒラタナス		(一34)・坪(一-3才)・国四(三20)	175	
176旅人ヒマシン	木1(二13)・能2(一12)・光(二25)	内1(一21)・内2(一21)	176	
179ロバヒ庭師	育1(二30)	中島(五3)	179	
180塗を運ぶロバ	木1(八22)・丹(二下27才)	池(二11)	180	
181ロバヒラバ		文部1(三16)・大矢(六8)・国一1(一-p46)	180	
186ロバヒロバ追い	木1(二5)・教(一13)・育(一25)・丹(二15)・木(上12)・大(二5)・鷲(首上13)・国二(一9)・国三(一9)	新2(一21)	186	
188ロイオンの皮を被つたロバ	小(四12)	内2(四25)・中原2(五28)	188	
193獣師ヒビヤリ	岸(一-p42)・青(一-13)・光(一16)	中明(一17)	193	
194獣師ヒコウトリ		井上1(四20)・内3(五7)・渡(五1才)	194	
210羊飼いのいたずら	漢(6才)・青木(三10才)・天(12)・木1(一5)・木2(一-16才)・宮(四4)・吉見(前6)・日(14)・日2(8才)・丹(一上7才)・吉田(二-24)・岸(一-p88)・沢(二5)・教(一13)・育(一25)・木(上12)・大(二5)・鷲(首上13)・国二(一9)・国三(一9)	田1(一5)・福(3才)・市(二1)・田2(一12)・宇(五10-14)・原(五11)・井上1(三13)・三尾(二中5)・中川(四4)・東(三18)・三宅(二3)・学習(三9)	210	
213サクロヒリンゴヒイバラ		池(一6)	213	
224サソシヒキツネ	能1(二4)・文1(一24)	原(四30)・中川(六9)	224	
226カメヒウサギ	木1(-6)・木2(五16才)・佐(一-2才)・岸(一-p53)・能1(三16)・育1(一36)・森(一-3才)・普1(-17・18)・学1(一-24)・普2(一-16)・学2(一-14)・右(一-4)・鷲(一15)・育2(一-16)・文2(一-20)・普3(-17)・光(一-25)・国二(一3)・国三(-3)	原(四1)・竹(三下35)・工(五9)・西郷(五9)・井上2(一39)・金3(四19才)・学習(三16)・興(六13)・金4(三8)・学海2(一2才)・文學1(一20才)・文部3(大15)・西沢2(四22)・育3(一30)・坪1(一9才)・普2(一-p32・37)・坪2(一-11才)・金8(一8才)・育5(一-19才)・高4(一-30)・育5(一-19才)・金10(一-19才)・學3(一-p40)・文學3(一-20才)・坪4(一10才)・西沢3(甲一13)・小山1(一-p40)・學4(一-p41)・文學4(一-p42)・學5(一-p43)・國二1(一-p12)・國二2(一-p13)・國二3(一-p13)・國三1(一-p13)・國四(一-p48)・國五(一-p13)・國五2(一3)	外台2(三5)・外南5(一-p62)	226
230カメリワシ		原(五39)・河(一37)	230	
232マイアンドロス河畔のキツネ		中明(一17)	232	
235アリヒハト	福(二回六1)・佐(三4才)・沢(三3)・能1(一-p2)・森(一-11才)・重(一-p3)・東(一8)・大(一-p4)・學1(一-22)・文1(一24)・鷲(一-p5)・育2(一-3)・光(一-17)	原(五44)・普1(五31)・文學1(七13)・育1(五4)・淺(四17)・坪1(一2才)・坪2(一-2才)・鷲(一-18才)・坪4(一-1才)・高4(一-1才)・光(一-p54)・國六(三下2)	中金(二7・1)・外南5(一-p23)	235
237ロバを買う男	能1(-3)	三尾(三上4)・右(七12)	237	
255駄ヒライオン	能1(二9)	寝舎2(一15)	255	
265獣師ヒ山ウズラ		外合1(七8)	265	
269イノンシヒ黒ヒ獣師		内2(四24)・新2(一31)	269	
281タナグラヒオンドリ	国三(二7)	日(四12才)・國一1(一-p37)	281	
285想像をはきつぶした男	中原1(六13)	井上1(三25)	285	
291牛追いヒラクレス	青山(五17)・能1(一5)	中上(二24-1)	291	
294ツルヒクジラ	池(二10)		294	
302ガシノキヒゼウス	池(二8)		302	
303きこりヒ松	池(二8)		303	

319黒と馬丁	井上2(三46)	319
322カニと母親	原(四27)	322
325ヒバリと農夫	田(二4)・田2(二6)・宇(五10-12)・学海4(五10)・国-1(五6)	325
326臘病(おくひう)な獵師	田(二4)・田2(二6)・宇(五10-12)・学海4(五10)・国-1(五6)	326
330犬と主人	中明(-17)	330
346オガミと肥えた犬	中明(-17)	346
349ランブ	中明(-17)	349
352田舎のネズミと町のネズミ	中明(-17)	352
365オガミを閉じ込めそうになつた羊飼い	中原2(二7)・小松(六5-6)	365
373セミヒアリ	井上2(二22)	373
384ネズミヒカエル	木1(十5)・吉見(前8)・岸(-p65)・能2(-24)・辻(穢(4才))・中島(四6・六4)・池(二13)・岡(-58)・内3(五2)・中川(七22)・下(四21)・木(四12-13)・育1(四17)・学海1(八9)・坪1(四15)・普2(二-p6)・坪2(四15)・金8(四4)・樋(四16)・坪4(四15)・小山3(二13)・高知(四15)・文学6(四8)・国六(三下2)	384
390ハシボンガラスと水差し	岡(一16)・右(二9)・育2(二23)・光(一13)・国四(二11)	390
376自分を膨らませるヒガエル	青1(二12)・小(三11)	376
384ネズミヒカエル	青1(二5)	384
390ハシボンガラスと水差し	岸(二-p82)・沢(-10)	390
412川ヒ海	木1(一11)	412
414麒麟と母ライオンヒインシ	木2(二17才)・育1(二38)・普1(二21-22)・普2(二22)・文1(二15)・文2(二8)・普3(二18)	414
426キツネヒツル	木1(一11)	426
451羊の皮を着たオオガミ	木1(一11)	451
460ロバの陰	木1(一11)	460
472高慢ちきなカラスとクジャク	木2(二17才)・育1(二38)・普1(二21-22)・普2(二22)・文1(二15)・中川(二35)・坪1(三24)・坪2(三22)・坪4(三21)・高知(三21)	472
499姉ヒ弟	木1(一11)	499
503三ワトリのヒナヒ貴珠	木1(一11)	503
521アリヒヒ	木1(一11)	521
563ライオンヒ羊飼い	木1(八24)・青1(二27)	563
563aアンドロクルスヒライオン	木1(八24)・青1(二27)	563a
566コウモリ	木1(三19)・能1(六11)・小(八5)・右(二22)	566
569サルの王様	木1(三19)・能1(六11)・小(八5)・右(二22)	569
605沢山の手立てを持つキツネヒ一ツだばの猫	木1(三19)・能1(六11)・小(八5)・右(二22)	605
613ネズミ、猫のことを協議する	木1(三19)・能1(六11)・小(八5)・右(二22)	613
627ナランダヒールのフィロメラヒ船頭	木1(三19)・能1(六11)・小(八5)・右(二22)	627
640a童と小作家	木1(三19)・能1(六11)・小(八5)・右(二22)	640a
671キツネヒハト	木1(三19)・能1(六11)・小(八5)・右(二22)	671
721父親ヒ息子ヒロバ	木1(三19)・能1(六11)・小(八5)・右(二22)	721
(01)少女ヒ牛乳壺	木1(三19)・能1(六11)・小(八5)・右(二22)	(01)少女
(03)欲張る子ども	木1(三19)・能1(六11)・小(八5)・右(二22)	(03)欲

(04)取り除かれた牛 ^ア 垣	池(−6)	池(−6)	(04)取
(05)子どもピカエル	青山(−6)・森(−9才)・教1(−19)・教3(−19)	市(−2)・中島(三7)・宇(三5−10)・普1(四26)・井田(二14)・吉賢(四20)・佐2(二上14)・東(四2)・青1(四14)	(05)子
(08)盗人と法師			中大(六5)・中武(−10)
(21)二匹のヤギ	小(六12)	工(六8)・島(八8)・興(八8)・國六(二5−2)	中大(六5)・中武(−10)・外南2(三17)
(36)馬の裁判	國三2(三27)		(21)二
インシブ物語紹介	國六(五下11)		(36)馬
			インシブ